Work Better

WB

Design. Insights. Research.

Spring 2024

Joy at Work

「幸福度」を高めるオフィス

Steelcase

Work Better WB

Design. Insights. Research.
Spring 2024

発行者 & エグゼクティブエディター
Gale Moutrey

編集長
Chris Congdon

副編集長
Rebecca Charbauski

特集編集担当
Stav Kontis

クリエイティブディレクター
Erin Ellison

シニアアートディレクター
Emily Cowdrey

アートディレクション&デザイン
Jennifer High, Abigail Downey, Kat Magee

シニア制作担当
Jacob Van Singel, Desiree Benko

海外担当
Meg Bennett, Rocío Díez, Laura Feinauer, Samantha Giam, Ruth Howard, Will Linnell, Carey Potter, Frederique Rey, Deena Sami, Lindsey VanDenBoom

寄稿ライター
Carson Brown, Jill DeVries-Dryer, Angela Eick, Brandon Lacic, Chiara Licari, Lisa Light, Abbey Lossing, Krista Markell, Brian Miller, Dean VanDis, Jody Williams

デジタルメディア
Areli Arellano, Jordan Marks

Inside This Issue
目次

The Wellbeing Dilemma 2
ウェルビーイングのジレンマ

High-Stakes Business Transformation 6
成長路線へのビジネス変革

The New Power of Privacy 8
注目を浴びるプライバシー

A Healing Touch 10
癒しのタッチ

Joy at Work
「幸福度」を高めるオフィス
気分良く、楽しく働ける「場」づくりのスタートは、
多角的な側面から従業員ウェルビーイングを考えることです。

ウェルビーイングを再考する 13

幸福感を演出する 18

ウェルビーイングのためのスペース設計 22

目的をデザインに組み込む 26

人間性を尊重する 28

Joy Unboxed: 20 Products That Will Make Your Day 32
「幸福感」を引き出す: 気分が上がるアイテム20選

Creating the New Gathering Place 36
魅力溢れる集いの「場」をつくる

Connecting to Culture 38
組織文化とつながる

World of Learning 40
学校教育はこう変わる

New Inclusion Center Welcomes Everyone 42
誰ひとり取り残さないインクルージョンセンターのカタチ

Departments

People + Planet 4
人 + 環境

Conversations 39
インタビュー
ウパリ・ナンダ博士が語る

Of Interest 44
最新情報

Inspiration 45
発想をカタチに

Is Finding Joy at Work Possible?

オフィスで楽しさや喜びを感じることは
果たして可能なのだろうか?

研究員のサラ・ジョンソン(右端)とメラニー・レッドマン(中央)は、Work Better編集長のクリス・コンドンとともに調査研究をもとに話し合いを重ねた。

私のやかんの注ぎ口のキャップにはこう書かれています。「口笛吹いて働こう。」—これは1937年公開のディズニー初のアニメ映画「白雪姫」で白雪姫が掃除をしながら歌う曲名です。仕事が忙しく余裕がない朝はこうした自分の周りのものに気づくことさえありません。

私たちは、仕事での自分の意識や視点を変えるだけで日々の退屈な仕事や日常にちょっとした喜びや達成感を見出すことができます。たとえ、他人の仕事の尻拭いをしている最中でもです。

そして、時に、口笛を吹きたくなるほど楽しいと思えることもあるのです。

スチールケースが世界主要企業を対象に実施した最新従業員意識&実態調査によると、従業員が抱える悩みは年々増える一方、企業は生産性の向上や新たな価値を創造するイノベーションの加速ばかりに注力していること、生産性は比較的安定しているものの、過去3年間の従業員ワークライフバランスは著しく低下し続けていること、約半数が健康な状態や働く意欲を維持できず、仕事や会社に面白さや魅力も感じずに精神疲労を溜めやすい傾向にあること、などが分かります(P2を参照)。

こうした状況の中、職場で喜びを見つけることは一見難しいように見えます。しかし、実は実現可能なのです。それは1日中ずっとハッピーでいるということではありません。まずは自分や自分の仕事に価値を感じること。そして、企業は、従業員が仕事のやりがいを見出し、楽しいと思えるようにするにはどうしたら良いかに着目することが重要です。実際、従業員の意識やニーズを理解し、考慮するだけでも従業員ウェルビーイングは格段に高まります。

世界のリーディングカンパニーはすでに、従業員を支援するための新たな行動規範やポリシーを策定し、実践に移しています。仕事の仕方を見直し、当事者意識を持った自主性や自律性を高めることで、仕事へのモチベーションは上がり、成果や幸福度は向上します。その際に注目すべき点は、「空間」や「インテリア」がそこで働く人の行動や心理に影響を与えるということです。オフィスデザインは目に見えるカタチで企業のメッセージを伝達するツールとして役立ちます。無意識レベルで人間の感情や行動変容に作用し、従業員ウェルビーイングや心の健康度、愛着度などのエンゲージメントにまで好影響をもたらします。

本号では、従業員の基本的ニーズを満たし、仕事場での喜びや楽しさにつながるオフィス空間をテーマに、最新の従業員意識調査から導かれた画期的アイデアや知見でその方法を掘り下げています。生活と仕事の境界線がより曖昧になる中で、働く「場」は劇的に変化しています。働く人が健やかでハッピーでいられるオフィスとは、成長路線へのビジネス変革を強いられる製造業などのスペースはどうあるべきかなど、多角的視点から「場」の重要性を唱えています。

私たちの目標とは、より良い未来社会の実現です。その一環として、私たちは「従業員の幸福度を高めるオフィス」づくりに積極的に取り組んでいきます。

Chris Congdon

Chris Congdon
クリス・コンドン
編集長
Work Betterマガジン

The Wellbeing Dilemma

ウェルビーイングのジレンマ

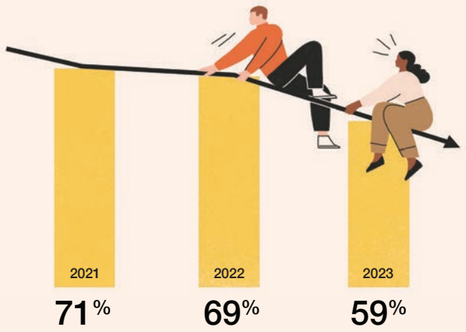
職場のウェルビーイングは企業の最優先事項、
しかし、従業員の意識や実態は大きく異なる

スチールケースが世界規模で実施した最新調査によると、コロナ禍後の劇的な働き方の変化にも関わらず、依然として従業員ウェルビーイングは改善されていないことが判明しています。企業は職場でのウェルビーイングを最優先事項に挙げている一方、実態はその取り組みとはかけ離れ、最新データは明確にその事実を突きつけています。企業には、従業員の不満点を理解し、ウェルビーイング改善に有効な変更を加えることが求められています。

ワークライフバランスの低下

生産性は比較的安定しているものの、ワークライフバランスへの満足度は過去3年間で大幅に低下しています。

ワークライフバランスに対する従業員満足度の推移
(「まあまあ満足」と「非常に満足」の合算):



調査について

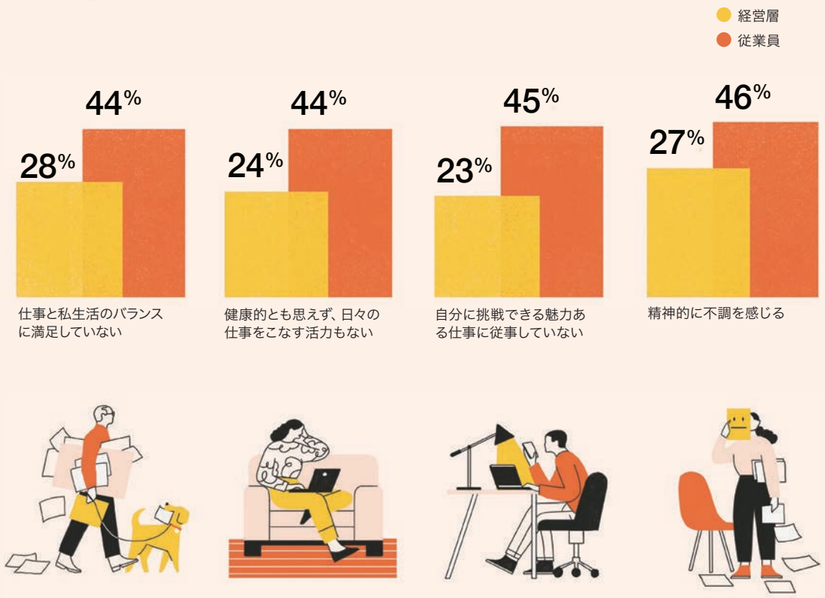
本調査は、世界11カ国、幅広い業種と事業所規模の企業を対象にスチールケースワークスペースフューチャーズ(チームによって実施。2020年から15回、68,925人以上の従業員と企業経営層を対象に定期的に実施されている調査シリーズの一貫で、その両方の実態と潜在的ニーズを把握することを目的としています。

サラ・ジョンソン
上級研究員

メラニー・レッドマン
主任研究員

従業員と経営層の意識の違い

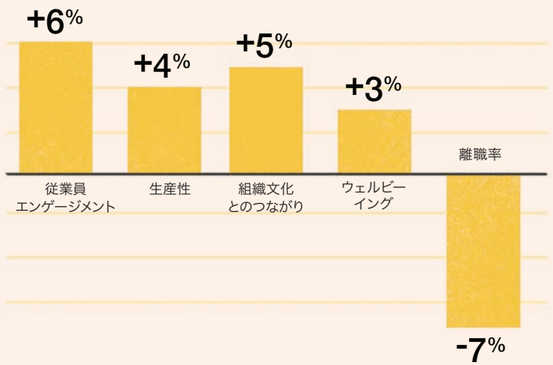
企業の経営層と従業員が期待する職場でのウェルビーイングにはかなりのギャップがあることが調査で浮き彫りになりました。実際、ワークライフバランスに対する従業員の評価は経営層と比べてはるかに低く、仕事へのやる気も同様でその半数がメンタル不調を訴えています。一方、経営層はわずか3分の1未満です。したがって、従業員との間には明確な意識のズレがあることを前提に対策を講じることが重要です。



従業員の58%は、経営層をオフィスで見かけない

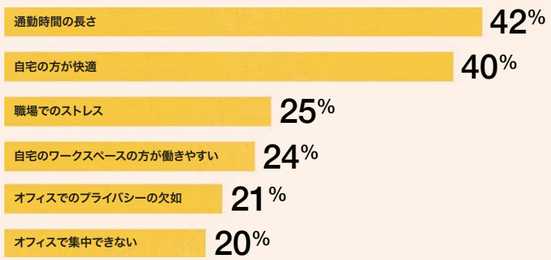
経営層: 出社することの効果

経営層の出社は仕事のパフォーマンスを左右します。経営層がオフィスにいることと職場での満足度には明確な相関関係があることが分かっています。経営層が率先して出社することで会社側の姿勢が伝わり、下記の項目が改善します:



オフィスはもっと改善できる

通勤時間を短縮させるのは難しいとしても、オフィスでの従業員ウェルビーイングの向上、仕事の効率性や快適性の改善など、出社したいと思わせるポイントは数多くあります。調査から分かった「オフィスで働きたくない理由」とは:



従業員が最も望んでいること

従業員はほとんどの時間を1人での集中ワークに費やしている一方、フリーアドレスやコラボレーションスペースは増加傾向にあります。今後の課題は、最大ニーズであるプライバシーとウェルビーイングの両方のバランスが取れた空間づくりです。

1 プライバシー
2 ウェルビーイングを念頭にしたスペース
3 バーチャルコラボレーションスペース
4 電源への十分なアクセス
5 多様なニーズに応える柔軟性の高い家具

50%
オフィスのサステナビリティがますます重要になると考える従業員の割合

59%
サステナビリティが重要だと考えるZ世代従業員の割合

個々のニーズを重要視

オフィスデザインで自分のニーズが満たされていると感じている従業員は、ウェルビーイングのスコアが大幅に高く、以前より22%増加しています。個のニーズを理解するというステップの積み重ねが大きな改善につながります。

「影響を与える要因は他にもありますが、オフィスの設計工程で個々のニーズが考慮されていると感じることが職場でのウェルビーイング向上に最もプラスの効果をもたらします。」

サラ・ジョンソン
上級研究員

People + Planet

人類と地球を健康に保つための取り組み：

地域社会の繁栄を支援する　インクルージョンを促進する　誠実に行動する

Keeping Hope Alive

希望を絶やさない

スチールケースは、米ミシガン州グランドラピッズのスチールケース・グローバルビジネスセンターの一角を再設計し、外傷性脳損傷の人々のスキル習得のための雇用プログラム用スペースを創出しました。

ホープ・ネットワーク(Hope Network)は、「再起はここで起こる」をモットーに、職業スキルの習得など地域のための幅広いサービスを提供する非営利団体。スチールケースのビジネスパートナーとして、同社のペイント、プラスチック、ラミネートなどの仕上げサンプルの作成等の労働力を提供しています。新スペースは、姿勢を変えながら作業に集中できる家具など個々のニーズを満たすように設計されました。

米ミシガン州、グランドラピッズ

ルーマニア、クルージュ

奮起できる機会を設ける

キャンプ・イグナイト(Camp Ignite)は、ルーマニアの資源の乏しい農村地域から380人以上の若者を受け入れ、ワールドビジョンの協力を得てスチールケースが主催する5日間キャンプを通しての自己発見/能力向上プログラム。キャンプ修了者は、その後のイグナイト・エクスプローラー(3週間インターンシッププログラム)とイグナイト・アンプリファイ(エクスプローラー修了者とスチールケース社員のペアによる3ヶ月メンターシッププログラム) を通して、引き続き自己の非認知能力を育成できます。同プログラムは、自己成長や将来のキャリアプランの策定にも貢献し、スチールケースが掲げる多様性、公平性、包含性を促進するもので若者の旅立ちと未来の才能獲得に寄与しています。

集団的創造性で挑戦する気候変動対策

気候変動対策に向けてのムーブメントをいかに起こすか。この問いかけは、スチールケース・ベター・フューチャーズ・コミュニティ(Steelcase Better Futures Community)が主催する第1回「Better Is Possible Design Challenge」のテーマです。世界にまたがる集団的創造性に着目し、世界11都市のスチールケース従業員とディーラー、パートナーを含むグローバルコミュニティに向けて1日集中ワークショップを実施。デザイン思考を主軸に多角的な視点から問題を検討し、独自のニーズを特定しながら解決策へと導き出しました。ソーシャルイノベーションマネジャーのマナ・タエリは、「課題解決のメソッドであるこのデザインスプリントは、皆が共にこの差し迫った問題をどう解決できるか。そのアイデアや方法を検証する素晴らしい機会となりました。」と語っています。

マレーシア、クアラルンプール

Better is possible.

共同体としての未来社会の実現は、
人と地球のウェルビーイング向上から始まります。

炭素排出量を削減する　循環型モノづくりを推進する　責任ある材料選択 + 使用を実行する

Rosenheim, Germany

Making the Grade

取り組みが高く評価

スチールケースは、2023年の気候変動情報開示でCDP(旧称Carbon Disclosure Project)から業界初のA-を獲得。また、サプライヤーとの連携による炭素排出量削減への取り組みが評価され、CDPのサプライヤー・エンゲージメント・リーダーボードにおいて4年連続でAを取得しました。CDPとは、投資家、企業、都市、州、地域のサステナビリティに関する情報を収集、分析、開示する国際NPOです。

スチールケースは、炭素排出量削減の取り組みの一つとして、製造施設でのオンサイト太陽光発電設置など再生可能エネルギーへの投資を推進しています。

団結力でさらに前進

スチールケースは、科学的根拠に基づいて炭素排出量削減に取り組むサプライヤーを表彰する「炭素削減リーダー」認定制度を導入。今年の受賞者31社に名を連ねたウルトラファブリック(Ultrafabrics)は、ハイテクで持続可能な高性能繊維メーカーで、炭素排出量の削減、材料の革新性と循環型モノづくり、安全性で注目を浴びています。

リサイクルテーブル天板

使い捨て割り箸をリサイクルするカナダのスタートアップ、チョップ・バリュー(ChopValue)との新たなコラボレーション。使用済み割り箸がスチールケースの Basslineテーブルの天板へと生まれ変わりました。

新たな価値を持たせて再利用

世界中で事業を展開するスチールケースは、世界規模でいかに廃棄物を削減するかの方法を模索しています。例えば、米ミシガン州グランドラピッズにある木材工場は、廃棄されるメラミン化粧板を輸送用パレットで再利用することで、年間約60万ポンドのパーティクルボードの廃棄を回避、シンガポールでは、張り地の端切れや仕上げ材の端材を利用してペントレイ、キーホルダー、サイドテーブルなどにアップサイクル、フランスのサールブール工場では、部門横断的に廃棄張り地を新たな原材料に変換するなど、取り組みを前進させています。

米ミシガン州ケントウッド

炭素排出量の削減方法
当社は、業界随一の世界規模かつ野心的な気候変動目標を掲げています。
当社の炭素排出量削減に向けての取り組みは下記をご覧ください:
steelcase.com/people-planet

High-Stakes Business Transformation

成長路線へのビジネス変革

コラボレーションスペースを改善することで
チームは効率よく成果を出し続けることができる

右上: Steelcase Privacy Wall, Steelcase Mackinac Height-Adjustable Desk, West Elm Sterling Chair, Steelcase B-Free Table with Worksurface, Coalesse Montara650 Bar Stool. 中央: Steelcase Ocular Coupe5 Table. 下: Steelcase Ocular Arc7 Table, Steelcase Karman Chair

厄介で重大な問題は複雑に絡み合い、多くの場合、その解決にはビジネス変革を伴うことになります。働き方は数年前とは劇的に変化し、組織やチームは広く分散した環境下で成果を出せる意思決定を迅速に行わなければなりません。

今後、AIがビジネスモデルを一変させる破壊力を持つと予想される中、ビジネス変革がチームのコラボレーションの仕方を大きく変化させていきます。「リーディングカンパニーは、様子見からいよいよその行動へと移し始めています。ビジネス変革から最大の成果を得るには、部門横断的チームが緊密かつ意図的に連携することです。」と語るのはIBMコンサルティングのパートナーであるニーナ・デロシェ氏です。

ビジネス変革を進める企業は、従業員の時間やコンサルタントの登用に多額の投資をするため、遅延はさらなるコストを生みます。分散型ハイブリッドチームは、さまざまな選択肢を検討し、それを迅速な意思決定や判断力で実行に移していくことを期待されます。このような状況下で、テクノロジーが扱いにくく、スペースが使いにくく、両方がうまく統合されていない場合、イライラが募るだけでなく、貴重な時間と追加コストなど多くの無駄を生みだすことになります。

コラボレーションスペースは「使いやすさ」重視

無駄と非効率を回避するためには、スペースそのものが障壁ではなく、仕事を捗らせるものでなくてはなりません。スチールケースの設計デザイナーは、Microsoft、Logitech、Crestron、Zoomなどの大手テック企業と連携し、分散型ワークに適したスペースづくりに着手。米ミシガン州グランドラピッズのスチールケースグローバルビジネスセンター内のチームスペースに、リアルとネットを融合した次世代のプロトタイプを完成させました。スマートテクノロジーと特注家具で統合された高性能スペースは、IBMやPwC、KPMGなどのビジネスパートナーとのいくつかのビジネス変革プロジェクトで利用されています。

「私たちは、世界各国のリーディングカンパニーとタッグを組んでこのような複雑なプロジェクトを遂行しています。働き方やスペースの利用方法までもプログラム化されるとその効果は絶大です。より効率的な時間の使い方が可能で、オフィス外の人も積極的にオンラインで参加できるため、誰一人取り残されたり遅れたりすることはありません。」とデロシェ氏は語っています。

スチールケースのCIOであるスティーブ・ミラーは、オフィススペースに意味と魅力が加わることで自宅よりも格段と効率的に仕事ができるようになったと述べています。

「細部にわたるまですべてが慎重に設計されています。テクノロジーを使いやすくすることで時間をより効率的に使えることから非常に満足しています。」とミラーは言います。

機動力あるチームをサポートするハイブリッドスペースを設計するにあたって、人々が便利で使いやすいと感じている体験や場所から多くのヒントを得ました。オフィスでの利便性を楽しむ瞬間、それは特に参加者が頻繁に出入りする際にボタンひとつで会議に参加できるなどさまざまなシーンで創り出すことが可能です。

スペース設計でビジネス変革を促す

スチールケースの設計デザイナーは、Microsoft、Logitech、Crestronのテックリーダー企業の協力を仰ぎ、ビジネス変革に向けてのコラボレーション推進型チーム環境を設計するプロジェクトを始動。その際に下記の6つの知見を導き出しました。このビジネス変革プロジェクトは定期的な測定とフィードバックにより、テクノロジーの進化やプロジェクトのニーズの変化も踏まえ、継続的な改善が予定されています。

1 スペース、家具、テクノロジーを一体として設計する
使用するテクノロジーを把握し、目と目、目とコンテンツの関係を最大化するようにスペースを設計する。また、会議の良し悪しはマイクで差がでるため、マイクの位置と種類は慎重に検討する。

2 流動的スペースを設置する
個からチームへ、チームから個へ。その作業フローを容易かつスムーズ、シームレスに移行できるようにする。

3 偶発的情報交換を促す
偶然出会った人同士の迅速な情報共有のために、統合ディスプレイとマーカーボードを備えた2-3人用のハドルルームを設置する。

4 継続的な情報表示と共有を可能にする
各チームは軽量かつ移動式情報ボードを使用し、必要な時にどこでも瞬時に問題解決のためのブレストができるようにする。

5 スペースを共有する
意見・アイデアをカジュアルに交換できるように、部門横断的チームメンバーが共同で使用できる予約可能なフリーアドレス席を設置する。その柔軟性がダイナミックかつ包摂的な環境の構築につながる。

6 フォーマル+カジュアルな集いを可能にする
オープンなミーティングエリアやカフェスペースを多目的かつ大人数な集いに対応できるなどより自由に活用できるようにする。

変革を成功へと導く必須アイテム

+ Steelcase Roam Collection
Microsoft + Steelcase
マイクロソフトと共同開発したモバイルスタンド。Surface Hub 3の新たな縦向きモードを使用して、場所や方法に捉われない自由なコラボレーションが可能に。

+ Steelcase Flex Active Frames
Steelcase
テクノロジーとビデオ会議ツールを組み合わせたメディアタワーは、オープンかつハイブリッドな「コラボレーションハブ」として活躍します。

+ Ocular™ Coupe5
Steelcase
リアル、ネット両方の人がどこに座っても最適な視界を得られるように設計されたテーブル形状が特徴。ビデオ会議に最適な配線マネジメントも考慮されています。

その他の新製品については、steecase.comをご覧ください。

The New Power of Privacy

注目を浴びるプライバシー
今日のオフィスで「プライバシーの確保」が必須の理由

ハイブリッドワークという新たな働き方には負の側面もあります。ウェブ会議のために場所を予約する、参加者はリアルかリモートか、またはその両方か、オープンスペースでの通話で大丈夫か、1人での集中ワークが必要かどうかなど、以前にはなかった手間や習慣、行動で脳には大きな負荷がかかっています。

スチールケースの最新調査では、これらの手間がいずれも新たな従業員ニーズと深く関わっていることが分かります。世界11カ国の企業の従業員を対象にした同調査では、オフィスでの「プライバシー確保」が1位、僅かの差で続いたのが「ウェルビーイングを考慮したスペース」でした。実は「プライバシー確保」と「熟考でき、居心地がいい（ウェルビーイング）場所」は密接に結びついているとも言えます。

新たな誘因

浸透しつつあるハイブリッドワークを取り巻く新たなニーズとその誘因を探るために、スチールケースは、ヨーロッパとアジア地域の企業の従業員数百人を対象にインタビューを含むアンケート調査を実施しました。

「今までと違うのは、会議の数だけ集中力が削がれてしまうということです。オフィスがフリーアドレス席など個人席を共有する方向にある中、プライバシーを確保できる選択肢が十分ではないと感じる人が実は多いのです。」と語るのはスチールケース・ワークスペース・フューチャーズのアンドラダ・ヨシフです。

プライバシーが求められる3つの要因

意識的、無意識的に従業員が職場でプライバシーを求めるのは下記の3つの要因が挙げられます。

周囲の環境は?
従業員は利用可能なスペースのタイプを重視します。個人スペースでどの程度プライバシーが確保されているか、周りにどのくらい人がいるか、オープンスペースでミーティングをさせる企業風土とは何なのかなど。

何をするのか?
従業員は、そこでどんなタスクをどの程度集中して行う必要があるかを考えます。そのタスクはどの程度機密性の高い情報を扱っているか、邪魔が入ってもいいのか、会議は長時間にわたるか、使用するテクノロジーの種類は、会話は個人的な内容を含むかなど。

気分はどうか?
個々の好みや自己認識、その時の気分も大きく左右します。周りの人の目や話声が気になる空間では集中できずにストレスを感じる場合もあれば、同僚の近くにいると安心したり、やる気がでる場合もあります。

プライバシー確保は、視覚的、音響的、領域的の3側面から検討する必要があります。設計デザイナーは、自分のタスクの種類に基づいて、視界や雑音などの周囲の刺激をユーザー自らがコントロールできるような多種多様なプライバシースペースを用意しましょう。

プライバシーとは、極めてパーソナルなもので、集中力、周囲とのつながり、活力回復をもたらします。役職に関係なく、すべての人が多種多様なプライベートスペースを利用できることが結果として仕事の成果を高めます。

コントロール + プライバシー度 - 高
機密性が高い仕事、深い集中力を要する仕事、休息など職場での邪魔や緊張状態から解放されたい場合などに人は高度なプライバシーを求めます。こうしたニーズに応えるために視覚的快適性や遮音性を考慮したスペースを選択肢として用意することが必要不可欠です。
左: Steelcase GroundLab、Steelcase Karman

“職場でのプライバシースペースは、ひとりで自己を顧みたり、溢れる情報やアイデア、思考や感情を処理するためにも必須要素といえます。一人ひとりが必要なプライバシーを多様な選択肢の中から選べることで、脳を休めたり、ストレス解消など従業員ウェルビーイングに大きく寄与します。”

アンドラダ・ヨシフ
研究員
スチールケース
ワークスペース・フューチャーズ

コントロール + プライバシー度 - 中
周囲からの視線や雑音がそれほど気にならない場合。チームの同僚と瞬時のコミュニケーションを取れる距離で、1人での集中ワークも周囲に見える環境が最適という場合もあります。例えば、セミクローズ型空間、周囲からの邪魔を最小限に抑えながら、同僚とも近距離でつながれる環境を提供します。
左: Orangebox Desk Single Seat unit & Screen

調査について
2023年秋、スチールケース・ワークスペース・フューチャーズチームが、インド、シンガポール、中国、イギリス、フランス、ドイツのナレッジワーカーを対象にインタビューとアンケート調査を実施したものです。

コントロール + プライバシー度 - 低
集中力を要さないタスク、通話の相手の話をただ聞いている、メールを送信するなどの場合は、オープンレイアウトの中の個人席を選択する傾向にあります。
下: CarbonNeutral® Steelcase Series 1 Air、Steelcase Alexis Collection、Shortcut

A Healing Touch

癒しのタッチ

美の脳科学で「幸福感」を
感じる素材を創り出す

テキスタイル業界の課題のひとつは、生地のメンテ、衛生や消毒を容易にしながら、安らぎや安心感を感じ、安全性が担保された健康重視の空間づくりを意識したテキスタイルの開発です。スチールケース傘下のテキスタイルブランドであるDesigntex(デザインテックス)は、この課題達成の一貫として、脳の働きと美的感性の関係を研究する神経美学に注目し、色や柄、カタチでどう脳がどう動くか、その心理効果を探っています。造形と機能の融合だけでなく、「幸福感」や「喜び」、「楽しさ」といった印象を喚起させるテキスタイルの開発が今後は重要であると捉えています。

本能に訴えかける

ある特定の色や柄がポジティブな感情を刺激するなど、色で人間の感情は動きます。人間の感覚、特に外界から得た視覚情報は瞬時に脳の中で処理され、さまざまな感情を引き起こします。脳科学者によると、これは潜在意識レベルで起こっていて、人間は生き残るために視覚的処理と解釈を高速に進化させたからだと言います。特に曲線やシンメトリーなどの特定のパターンを好み、これは人間の脳が自然界にある造形を情報的に処理しやすいためだと考察されています。[1]実際、これらのパターンは視覚的に識別しやすく、気分が落ち着き、ストレスが軽減されると言われています。

色や配色もさまざまな心理的効果があります。例えば、青などの寒色系は、落ち着きや信頼感といった印象を与え、[2]オレンジ、ピンク、黄色などの暖色系は、陽気さや幸福感といった視覚効果があります。色彩と感情に関する調査では、被験者の75%以上が黄色を「喜び」と印象づけたことは[3]、太陽の光に対する肯定的な連想によるものだと研究者は考えています。[4]明るくエネルギッシュな色はポジティブな感情をもたらします。Aesthetics of Joyの著者であるイングリッド・フェテル・リー氏は、「幸福感を倍増させる力、それはコップの水の表面に一滴落とした濃縮色素が急速に広がるようなもの」と表現しています。ストレスフルなオフィスでの息抜きスポットなどには、こうしたポジティブな感情を引き出す配色がポイントになります。

Designtexのエグゼクティブデザインディレクターであるサラ・バルデリ氏は、神経美学の原理をもとに遊び心溢れる柄や曲線的なカタチ、エネルギッシュな配色を考慮して、医療や使用頻度が激しい環境下でのテキスタイルの開発に取り組んでいます。

「脳の働きと美的感性の関係を研究する神経美学は、ポジティブな心理的効果をもたらす色彩や柄のテキスタイルを開発するための基礎になっています。カタチと機能、それに感性をのせること、それが私たちの仕事です。」とバリデリ氏は言います。

Designtexは、Steelcase Healthと協力して、これらの斬新なデザイン原則を適用し、患者や臨床医が使用する医療スペースに温かみや安らぎを感じる空間づくりに着手しています。

「美しくかつ耐久性のある医療用高機能テキスタイルは、癒しを与える空間を彩り、患者、介護者、臨床医、看護スタッフなど、そこを利用するすべてのユーザーの感性や感覚を刺激するという点で重要な役割を果たしています。」と語るのはSteelcase Healthのアプリケーションデザインマネージャーのベス・ブロンソン氏です。

1 Mind in Architecture: 脳科学、具現化、デザインの未来
2 Psychological Science Journal: 色彩心理学に基づく普遍的な柄は、言語的および地理的近度によってカタチづくられる。
3 College Student Journal: 色彩心理学、大学生を対象とした調査
4 Journal of Environmental Psychology: 雨がなければ太陽を楽しめない。世界55カ国で物理的環境が黄色に対する感じ方に影響を与えることが判明。

パトリシア・コジル
インテリアデザインリーダー
スチールケース、ミュンヘン

素材が与える効果

医療施設向けの仕上げや張り地についての今回の学びは、その多くがオフィスや教育環境など、使用頻度の高いスペースにも適用できます。スチールケースミュンヘンのインテリアデザインリーダーであるパトリシア・コジル氏は、色、質感、素材はよりナチュラルでサステナブル、そして、本物志向に向かう傾向にあると述べています。

“今日の顧客は、機能性だけでなく、空間とのつながりを通して、感性や感覚に訴える体験を求めています。この本能的欲求が個性や価値観を表現する場を活性化していくのです。”

Below: Designtex Pentimento

Joy at Work

「幸福度」を高めるオフィス

YES, IT'S POSSIBLE

「喜び・楽しさ」と「仕事・働く」は、一見相反する要素のようで、その因果関係は多くの研究でも取り上げられてきました。最近の研究論文でも、実は幸福感が高まるほど労働者の生産性は上がるということが明らかになっています。

Joyfulの著者であるイングリッド・フェテル・リー氏は、「喜び」や「幸福感」とは感情であり、その瞬間に感じる一時的な状態を指すと述べています。日常の些細なことや毎日の小さな変化を拾い上げることが継続的な幸福感や喜びを引き起こします。例えば、ふわふわの枕、遊び心のある照明、心地よいチェア、ホッとする笑顔。デジタル化が生活に浸透する中でそれを上手く活用できた時の喜びなど。その気分の高揚の積み重ねが関心や行動範囲を広げ、自己成長やキャリアでの成功を導いていきます。幸福度の高いオフィス空間を設計してもすべてをポジティブな行動に変えることはできません。しかし、少なくとも従業員が協調性を持って組織として成長できる企業文化を育み、全体としての競争力を高めることにつながるのです。

物理的空間がそこで働く人の行動や思考をカタチづくるということ。つまり、空間が変われば、人の行動が変わることは広く知られています。1日の仕事の終わりにむしろ元気が出るような空間をデザインするにはどうしたらいいのか。オフィスの設計デザイナーは、こう自問自答しながらその方法を模索しています。生産性を高めるだけでなく、喜びの瞬間を増やし、幸福度をアップさせるオフィスデザインとは何かを探ります。

本特集の内容:

ウェルビーイングを再考する	13
幸福感を演出する	18
ウェルビーイングのためのスペース設計	22
目的をデザインに組み込む	26
人間性を尊重する	28

Rethinking Wellbeing

ウェルビーイングを再考する

その根底にあるのは「幸福感」

そこで働く人の喜びや幸福を感じる瞬間を増やし、ポジティブ思考や自己成長を促すオフィスを設計するには、まずは、何が「幸福感」を生み出すのかを理解することです。例えば、従業員の健康維持を目的とした社内ジムの設置や食事面でのサポートなどは健康経営に向けての取り組みとしては評価できます。しかし、それらはあくまでも表層的なもので、ウェルビーイングとはもっと深い心のあり様を指します。ウェルビーイング研究センターの最新研究では、オフィスでの働く体験そのものを変化させることが最も効果があると示唆しています。

The Secrets to Happiness at Workの著者で、スチールケース・ワークプレイス・インサイト担当副社長であるトレイシー・ブラウワー博士はこう語っています。「一般の見解とは反対に、幸福感とは決してフワっとしたものではありません。幸福を感じる程度は状況によって差はあるものの、ウェルビーイングや満足度、充実感といった感情は仕事の成果と切っても切り離せません。実際、組織においては好循環を招き、活力のある強い組織として成功できる重要な要素と位置づけられています。」

仕事で幸福感を感じると成果が上がることも実証されています。カンザス州立大学の研究論文では、従業員の幸福度が高いほど、組織の意思決定の質は高まり、仕事のパフォーマンスが向上する、心身のウェルビーイングは経営コストの削減にも寄与し、病欠や離職率も低下する、仕事への意欲や会社に対する貢献度も高く、家庭生活にも満足している、などと報告されています。また、インドでのある研究は、楽観主義も仕事のパフォーマンスや満足度にプラスの効果をもたらすと結論づけています。

空間はそこで働く人の行動をどう変えるのか。従業員が気分よく働くために企業はどんなオフィス環境を構築すべきか。どんな要因で働く人のニーズは異なるのか。これらの問いを探るために、スチールケースは、オフィスでのウェルビーイングをさまざまな側面から調査、分析しました。

身体的、認知的、情緒的なウェルビーイングは、**意義、自分らしさ、帰属意識、楽観主義、マインドフルネス、活力**といった6つの側面に分類できます。

上: Coalesse Circa Sofa, Coalesse Bob Coffee Table, Bolia Mera Side Table, Tom Dixon Fat Lounge Chair, Moooi Carpets Liquid Layers Pebble Round Rug, West Elm Work Nolan Side Table, Extremis Sticks Divider, Blu Dot Thataway Sofa, m.a.d. furniture Urban Shelf, Bolia Cosh Armchair
写真提供:Jason O'Rear

Find Meaning 「意義」を見出す

人生の目的を自分の内側から見つめ直し、より大きな何かとつながる

まずは、人生を生きる上で自分がどうありたいか、何をしたいかを明確することです。仕事での自分の努力が「自分よりも大きな何か」に貢献していると感じるとより深い満足感を覚えます。つまり、仕事に意義を見いだすと仕事により熱心に取り組めるようになるのです。例えば、その目的が気候変動に取り組むといった地球規模での大きな課題の場合もあります。組織やチームの目標を共有して意識することで日々の仕事でのやりがいは感じやすくなります。

オフィスとは、従業員が創造性を発揮して新たなアイデアを生み出したり、組織という自分より広い世界とつながることで仕事への意義や目的意識を感じられる「場」であるべきです。

「場」づくりのヒント
共有スペースや通路を活用し、経営層と従業員が偶発的に出会い、気軽に交流し、新たな発見につながる仕掛けを意図的に創出しましょう。

Nurture Optimism

「楽観主義」を育む

忍耐力や自信を養い、
自己成長を促すポジティブマインドを育てる

今日の慢性的な心身疲労やストレス過多が従業員のワークライフバランスを低下させています。仕事への意欲や集中力にも悪影響を及ぼすことから企業のメンタルヘルス対策への取り組みは急務であるといえます。オープンで前向きな雰囲気が組織内に浸透することで、従業員のストレス耐性は高まり、仕事への貢献度が高まり、結果として業績の向上につながります。

オフィス空間を通して、個々が自由に自己表現でき、学びと自己開発の一環として失敗や間違いを許容できる雰囲気をつくりあげること。それが結果として従業員の間にポジティブなマインドを植えつけ、回復力の高い組織を築くことができます。

「場」づくりのヒント
働く人が幸福感を感じる仕掛けを演出しましょう。自然光や外景を捉える窓、足を伸ばしてくつろげるソファ、温かみのある天然素材など、細部への配慮やこだわりが人を笑顔にします。

上: Coalesse Hosu Lounge Chair, FLOS Tab Floor Lamp

上: Steelcase Karman, Steelcase Migration SE Pro

Embrace Authenticity

「自分らしさ」を大切にする

ありのままの自分を見つけ、表現する

他者の視点や嗜好、外見、言語や文化など今日のビジネスを取り巻く「多様性」を受容できることは、組織力の強化や成功にとって必要不可欠なポイントです。一方、AIの登場で本物を見分けることがかつてないほど難しくなっています。職場での少数派であるマイノリティは、無理に周囲に合わせてストレスを感じたり、出社を拒む場合もあります。

ありのままの自分を受け入れるには、自分自身や自分とは異なる価値観や背景を持つ人をまずは受容することが大切です。そのことが燃え尽き症候群からの再起やストレス軽減、仕事への熱意や意欲の向上につながるからです。これからは個々に権限を与え、ありのままの自分を表現することを奨励する「場」としてのオフィスが求められていきます。

「場」づくりのヒント
移動可能な家具、自在にどこでもプライバシー確保が容易など、個々人が仕事内容やその日の気分によって自らの手でスペースを柔軟にコントロールできるようにしましょう。

Cultivate Belonging

「帰属意識」を育む

個々の個性を受け入れ、尊重するコミュニティ意識を築く

オフィスが果たす重要な役割のひとつが、「価値観や背景の異なる多様な人同士をつなぐ」ということです。帰属意識の醸成は、企業理念や経営方針に対する信頼感や共感を生み、協調しながら会社への貢献意欲も増していきます。ハイブリッドワークやリモートワークが普及する中、社会的な孤立感や孤独感の高まりはいまや世界的な問題（世界の成人人口の4人に1人*）として捉えられています。ハイブリッドワークは働き方を柔軟にする一方で、人間同士のつながりを薄くし、帰属意識の希薄化を招いています。職場でもありのままの自分が受け入れられ、尊重されていると感じるコミュニティを再構築する時に来ているのかもしれません。

一人ひとりが組織の一員として受け入れられていると感じられるようにすると、組織としての一体感が生まれます。それには誰もが多種多様なスペースを公平に利用できるようにすることが役立ちます。例えば、経営層だけが利用できる個室があるオフィスと誰でもが利用できる個室ブースがあるオフィスを比べれば、その結果は明らかです。

*Global Meta-Gallup Survey 2023

「場」づくりのヒント
書棚やディスプレイのある集いの「場」や共有エリアは、オフィス内での不公平感を減らし、何気ない雑談を促し、仲間意識や連帯感、帰属意識を高めます。

下: Viccarbe Cambio Table, Viccarbe Aleta Lounge Chair,
Viccarbe Burin Table, Viccarbe Maarten Stool, FLOS Almendra Pendant Light

下: Social Collection

下: Social Collection

Promote Mindfulness

「マインドフルネス」を促進する

「今」という瞬間と自分や周囲の人たちに意識を向け、受け入れる

今というこの瞬間に意識を向けると、不思議と心は落ち着き、平静さを取り戻すことができます。急速に進化するデジタル社会における情報過多の状態は、集中力の低下やストレス障害をひき起こし、心の健康状態を示すメンタルヘルスにも影響を及ぼしています。マインドフルネスは、その改善に有効とされていて、時間をかけて実践することで集中力や学習力を高め、ストレスを解消し、組織内での連帯感を強化します。

マインドフルネスの実践は、今日の従業員のための必須ツールキットと捉えられています。瞑想やヨガ、注意散漫を回避し仕事に没頭する、心を自由にさまよわせる、仕事中の仮眠など、オフィス空間という観点からの対策も役立ちます。

「場」づくりのヒント

オフィスの雑音から離れてプライバシーの高い隠れ家スポットで過ごす、その静かなひとり時間や休息タイムが脳をリフレッシュさせます。自分の内面に意識を向けると、自己開示しやすく、他人の話にも耳を傾けやすくなります。

Below: Coalesse Lagunitas Lounge Seating, Coalesse Personal Table

上: CarbonNeutral® Steelcase Series 1 Air, Steelcase Alexis Collection

Foster Vitality

「活力」を養う

心身が健康かつ活動的である

心と身体の健康は互いに深く関係しています。心身が健康であればあるほど、仕事や生活にハリができ、生活の質そのものが高くなります。多くの人は、心身が疲労していてもその疲労が溜まらないように健康や活力を維持するよう心がけています。

健康的な食事、運動、十分な睡眠など心身の健康維持が仕事の成果を上げる土台となります。企業が健康経営を推進する中で、健康的な生活習慣や行動変容はオフィス空間の中でも十分に実現できます。

「場」づくりのヒント

常に決まった場所からウェブ会議に参加するのではなく、場所を移動しながら働けるようにしましょう。1日を通して身体を動かせるように「腰掛ける」、「座る」、「くつろぐ」といったさまざまな姿勢が取れるスペースを設置しましょう。

Designing for Joy

THE EDIT

幸福感を演出する

スチールケース・グローバル・インテリアデザイン・プラクティスチームには、200人近くのその道の専門職が所属し、建築家やデザイナーの協力を仰ぎ、同社が集積した調査や知見をベースに問題を解決する製品や空間を提案しています。今回、世界中のさまざまな地域のデザイナーに、「幸福度」を高めるオフィスとはというテーマで、オフィス時間を楽しく過ごすためのお気に入りの定番アイテムを選んでもらいました。

コラボレーションスペースを設計する際の私のインスピレーションの源は、アジアという歴史や文化的背景が全く違う異文化環境そのもので、私の創造力を掻き立てる原動力になっています。

ロイド・トーマス
シンガポール

アジア太平洋地域は、多様で活気に満ち、その表現の違いや特性など、私のデザインへのヒントが溢れています。ベトナム、タイ、インドネシア、オーストラリア、ニュージーランドを頻繁に旅すると、まずは発展途上国と先進国の違いに驚かされます。

デザインの着想源

発想力の源: ピアノを弾く、油絵を描く、交響楽団の演奏に参加する。

リラックスの仕方: ストレスが溜まったらヨガで頭をすっきりさせる。

仕事活力の源: 仕事中の抹茶。コーヒーは飲まない。

芸術と建築に造詣が深いことから、アジアの身近な現代建築や古典建築の両方から触発される。

私が選ぶお気に入りアイテム

Steelcase Flex Perch Stool
Steelcase

スペースのサイズを気にせずに、必要な時にサッと抱えて座れる便利なスツール。座ることを意識せず、身体の無駄な動きを抑え、仕事に集中できることを念頭に設計されています。

デザインのヒント
私は、働く人が豊富な選択肢の中からチェアを選び、自分で環境をコントロールできることが大切だと考えています。例えば、バースツールとテーブルの組み合わせは、周囲の人との何気ないやりとりも可能で、雑談からより深い対話へのシフトも容易です。

In the Meadow Bumblebee Rug
Moooi Carpets

ハードな仕事の合間に目に留まる鮮やかで個性的なラグとお洒落なドリンクウェア。感性を刺激しながら、楽しく心地よい雰囲気を創出します。

Tank Decanter + Lowball Glasses
Tom Dixon

休憩スペースをデザインする際の私のポイントは、自然とのつながりを感じる共有空間であることです。

アマンダ・ゲリエ
フロリダとカリブ海地域

家のDIYリフォーム、2人の娘のための手作り誕生日パーティー、遊びながらできるカップケーキのデコレーションなど、私はとにかく自分スタイルで何かを創り出すことが大好きです。私の修士課程の研究テーマは、バイオフィリックデザインとウェルビーイングとの関係でした。多くの人が1日の90%を屋内で過ごす中、日常の中にいかに自然を取り入れるかを常に心がけています。

デザインの着想源

お気に入りのお家プロジェクト: 1928年に建てられたインド、バンガローのバスルームを自分で改装（タイル、ビーズボード、照明）

おすすめの一冊: イングリッド・フェテル・リー著「Joyful」、クリストファー・アレクサンダー、マレー・シルバースタイン、サラ・イシカワ著「A Pattern Language」

甘いもの好き: たっぷりのチョコレートで自然に笑顔

私が選ぶお気に入りアイテム

Memento Moooi Medley Dawn Round Rug
Moooi Carpets

ウールの質感を備えたラグは、動物、花、雲といったモチーフで意識を自然へと誘う今注目のバイオフィリックデザイン。空間にソフトでナチュラルな雰囲気を添えます。

Sticks Divider
Extremis

Story Side Table
Bolia

Council Lounge
Blu Dot

デザインのヒント
あまり主張しない方法でいかに自然を屋内に取り入れるかを常に考えています。ウールや無垢材などの天然素材、丸みのある家具、自然界に存在する色彩や配色、光が柔らかく、眩しさが少ない照明など。観葉植物だけでなく、自然をテーマにした模様や柄も検討の価値があります。

オフィスは、よく知らない人との関係を築ける数少ない場所のひとつです。居心地がよく自分らしくいられる交流スペースの設置はこれからのオフィスには不可欠です。

ミハイ・ヴラッド・ステファン
クルージュ、ルーマニア

ルーマニアのクルージュは、地域のトレンド発信地として注目を集め、ルーマニア最大の大学を中心に挑戦マインドを持つ若者によって成長、発展し続けています。私自身もコンフォートゾーンと言われる慣れ親しんだ心理的に安全な領域から抜け出したいと常に思っています。失敗や批判を恐れずに、トレンドを観察しながら絶えず新たなアイデアや方法を追求する姿勢、そして、コンフォートゾーンから抜け出して敢えて居心地が悪い状態に身を置くこと。それが自己成長への一歩です。

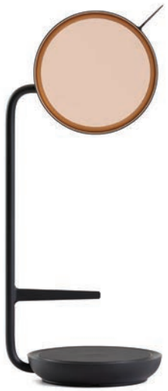
デザインの着想源

日常の必需品： 音楽。音楽が止まると思考も止まる。集中したい時は必ずエレクトロビートやインスト音楽。

マインドフルネスの実践： ランニング。退屈しないようにルートを変えてその変化を楽しむこと。2人の子供を持つ忙しい父親として、ランニングは心身の健康維持に欠かせない。

前向きになる方法： 行き詰まった時には裏庭で星空を眺めること。謙虚になって自分の誤りと限界を素直に認め、次へと進む最善な方法を考える。

私が選ぶお気に入りアイテム



Steelcase
Eclipse Light
Steelcase

Hosu Lounge Chair
Coalesse

身体を伸ばし、力を抜いてリラックスしたり、きちんと座って集中したり。どう座るかはその人次第です。

デザインのヒント
オフィスで自分の居場所を感じられるようにするには、好みや気分で姿勢を変えたり、プライバシーレベルを調整したり、周囲の景色を選べたりなど、好みやその日の気分、仕事内容で個々が仕事環境を自由に選択したり、調整できるようにすることが有効です。

Shape Table
Viccarbe

丸みのある有機的な円柱と三角柱を組み合わせたテーブル。彫刻のようなフォルムが空間を彩ります。

Liquid Layers Flint Rock
Moooi Carpets

学習はどこでも起こります。新しいことを学ぶと、より大きな目的とつながり、知識やスキルを習得できるだけでなく、潜在能力が目覚め、自信もつきます。学習スペースには、グループで集い、自由にアイデアを出し合ったり、コンセプトを立案したりできる仕掛けが大事です。

マリア・フェルナンダ
マドラ・マルティネス
モンテレー、メキシコ

メキシコ北東部に位置する活気に満ちた都市モンテレー。地元に根ざす大手のメキシコ企業や若者を惹きつける質の高い大学の存在によってこの豊かな地域力は維持されています。この都市の革新性や活力のようなものを空間に取り入れること、つまり、オフィスで多彩なスペースを展開することでそこで働く人の可能性を引き出したいと考えています。

デザインの着想源

集中力を高めるコツ：ピアノ・ガイズの曲を聴く。

創造の壁を乗り越える方法： 素材や空間のデザインや雰囲気をゲームのように遊んでみる。そうすると脳がリラックスして作業に没頭できる。

インテリアへのこだわり： 好きなものに囲まれて暮らす人は、個性の表現を大事にします。生活感がありながらも物語がある空間。

自由時間に絵を描くのが趣味だというマリア。水彩画の柔らかなタッチがデザインの着想源となり、趣味で培われた忍耐力はマインドフルネスの実践に役立っています。

私が選ぶお気に入りアイテム

Elbrook Table Collection
Steelcase Learning

スケートボードウイールを連結したレッグが特徴的なテーブル。スケボーのようにオフィス中をテーブルも動く時代へ。

Steelcase Flex
Markerboards + Team Cart
Steelcase

Thread
Steelcase

パソコンを充電できないイライラから、フル充電できた時のちょっとした喜び。オフィスワーカーを陰で支える電源スタンドです。

デザインのヒント
軽量かつ持ち運び可能なマーカーボードを活用しましょう。人と一緒にアイデアも移動し、簡単にどこでも情報共有が可能に。メモもカメラ機能でより見やすく配置できます。

活力回復ルーム
オフィスの雑音や会話といった騒がしいノイズから逃れたい人のためのスペース。光の明るさや光色が調節できること。身体を包み込むような設計でゆったりとくつろげるラウンジチェア。ブランケットを収納できるトレー付きサイドテーブル。フェルトの吸音タイルが貼られた壁面は音を吸収し、水の音などの自然音を聴くことでリラックスできます。

“私は自閉症スペクトラムで、同僚は好きですが密な対人関係は苦手です。また、聴覚過敏なので音に過敏に反応してしまいます。”

デザイナー向け：
プランニング
アイデアを
ダウンロード

Making Space for Well Beings

ウェルビーイングのためのスペース設計

朝、目覚ましが鳴ったとき、何をまず考えますか?誰もが日常で異なる欲求や心配を抱えています。しかし、私たちにはひとつだけ共通点があります。それは、「人間性」、人間として生まれ持っている内面です。

企業の経営層の中には、従業員に「職場ではありのままの自分でいよう」を奨励する人もいますが、多くがそれは難しいと感じています。* 周囲に弱みを見られた場合の否定的評価や無意識な偏見などを不安視している声があるからです。組織の中で自分が自然体でいられ、安心して仕事に取り組める状況や、多様性を受容し尊重する組織文化はオフィス空間のデザインを通して実現できます。

職場で自分の個性やありのままの自分を隠し、期待している役割を演じなければならない場合、当然、気分や仕事の仕方に悪影響を及ぼし、注意散漫になることが多く、仕事のパフォーマンスが低下します。* 現在、多くの企業は、福利厚生で身体の健康ばかりに注力していますが、今後求められるのは心の健康であるメンタルヘルス対策です。ジムや瞑想室は別として、包括的なウェルビーイング対策は、未だ現実味が薄く、日常の働く体験に結びついていないのが現状です。

従業員のリアルな生活を念頭にしてウェルビーイングを支える多種多様なスペースを設置しましょう。結果として、心理的負担を減らし、包摂的かつ思いやりのある組織文化を醸成します。また、円滑な人間関係を構築しながら仕事の成果を上げること、それが出社するオフィスの大きな役割であることを広く伝達できます。

スチールケースのデザイナーたちは、オフィスでの個人的体験を共有するさまざまな従業員グループと連携して、人間本来のニーズに基づいた多彩なスペースを設計しました。

**Deloitte: Uncovering Culture Report 2023*

ウェルネスルーム
健康管理が必要な従業員のための予約可能なスペース。自然光が差し込み、ソファベッド、ノートパソコン用テーブル、トイレなどを備えています。ビルトインのシンクと収納には、医療用品などを収納でき、健康診断にも対応できます。

“がんと診断されたとき、気晴らしとして仕事を続けたいと思いました。治療で疲れ果て、吐き気もしたので、横になれる場所や自分専用のトイレも必要でした。”

授乳室

授乳室には、ロッカー、冷蔵庫、シンク、電子レンジが装備。電源付きテーブルは、ノートパソコンで仕事をしたり、おむつ交換、簡単な食事ができるなど十分な広さを備えています。すりガラスやカーテンでの目隠しでのプライバシーや衛生面にも配慮し、塗装されたガラスにメッセージを残せるなど円滑なコミュニケーションも促しています。

“産休からの仕事復帰は楽しみですが、仕事と育児の両立で不安要素もあります。オフィスで気兼ねすることなく、授乳できるのか心配です。”

リフレクションルーム

宗教などの多様性に配慮し、さまざまなスピリチュアルな儀式や瞑想のためのミニマルスペース。祈りの敷物と瞑想用マットの収納、吸音壁タイル、調光可能な照明、靴置き棚などを備え、デザインは徹底的に無駄を省いています。浄化儀式で使用される個室型洗面所は、祈りの方向から離れた場所に設置され、宗教関連アイテムも保管できます。

“オフィスに祈祷室があればと思っていました。でも、祈りの前になぜ洗面所で身体を洗っているのかと聞かれるのは嫌です。”

Well Played

ゲームの効果

職場でゲームをする。これには怠惰や気晴らしといった非生産的な行為だと言う人が多いかもしれません。しかし、現在、大学機関からヒントを得て、ゲームという遊びを取り入れながら楽しく仕事をすることで仕事意欲や生産性を高めようという動きもあります。

「私たちは、1日中全力でより多くの仕事をこなそうと努めていますが、実はそれはあまり効果がないと言われています。仕事の合間に短い休憩をとって、ビデオゲームのような遊びを取り入れる方がより効率的で成果が上がるというのです。」と語るのは職場でのビデオゲームについての研究論文、Human Factorsの共著者であるマイケル・ラップ氏です。

オフィスにゲーミングスペースが設置されたり、それに興味を持つ仲間が形成されると、そのつながりを持つことが出社する動機になることがあります。スチールケースの社内ゲームコミュニティは、現在、世界中で200人近くにまで膨らみ、オンラインゲームやeスポーツ、ボードゲーム、クイズ、パズルなどリアルとネット両方でつながっています。

オフィスにちょっとした遊びを取り入れる効果とは：

コミュニティ形成に役立つ：「友達はそう簡単にはできません。友達をつくる最短の道は、友達ができる環境をまずはつくることです。」と語るのはFriendsの著者であるロビン・ダンバー氏です。職場での友達の存在は、人材の定着率を高め、信頼関係を強化し、仕事への意欲を高め、創造型コラボレーションを促進します。

自分らしさが出せる：「ゲームは、自分らしさを職場で出せるひとつの方法で、情熱を表現できるようにすることで自分に対して自信が持てるようになります。」と主張するのは、パシャ・オードセマ氏と共にスチールケースのゲームコアチームを率いるチャーリー・ハント氏です。

脳が休まる：「このスペースの存在が日頃のストレスを緩和してくれます。友達に会えば、精神的に落ち込んでいても大丈夫と思えるのです。」とオードセマ氏は言います。ゲームでの短い休憩は、認知疲労の軽減にも有効です。

多様性あるチームができる：ゲームにおいては、年齢、役職、部門などは一切関係ありません。そこに「集う」目的は、単純に喜びを分かち合いたい、そこがなかったら出会わなかっただろう人間関係を大切にしたいということです。

仕事に役立つスキルが身につく：今日のゲームのスキルは、仕事で成果を上げるためのスキルと非常に類似しています。リアル、ネット両方でつながるメンバー同士が円滑に連携し、迅速な意思決定を行い、問題を解決していく。まさにこれは仕事のシーンと同じです。

ゲームコミュニティ導入に向けてのアドバイス

ゲームの「ハブ」をつくる
人間工学を配慮したチェア、チェアとテーブルのセット、リラックスできるソファなど、リアル、ネットでスムーズにつながり、ゲームを楽しめる多種多様な「場」を用意する。

まずは1回のゲームから始めてみる
最初から一度にコミュニティを構築しようと思わない。

正しい意図に基づく
従業員がゲームブレイクを計画し、ゲームを通してコミュニティを構築できるよう促す。

パズルゲームを提供する
どのオンライン/アナログゲームが最も興味があるかの従業員アンケート調査を実施する。

チャットでつながる
デジタルチャットは、リアルでの活気あるゲームコミュニティを構築する。

ハイバック付きソファはプライバシーを確保しながら、
隣接のスツール&テーブルスペースとの会話も容易です。

Above: Viccarbe Trestle Table

Combining Purpose + Design

目的をデザインに組み込む

Goodeeは、サステナビリティに特化した生活雑貨や家具を取り扱うカナダのグッズ通販のスタートアップ企業。目的をデザインに融合した事業展開を強みとするスチールケース・ブランド・コミュニティの一社です。同社は、コロナ禍後にようやく新オフィスに移転しましたが、当初の予定よりも長い期間、リモートで仕事をすることを余儀なくされました。

2019年に黒人の双子の兄弟で設立した同社は、社会や公益のための事業を行っている企業に発行されるBコープ認証*を取得し、そのEコマースサイトはコロナ禍をきっかけに勢いを増しました。「事業をスタートし始めた時にリアルで働くことができないことが打撃でした。」と語るのはデクスター・パート（写真左）とバイロン・パートの2人です。

「自分が何かに属し、その一員としての愛着や自覚がなければ、より質の高い仕事をすることも、自分の能力を最大限に発揮することもできません。オフィスとは企業の価値観が反映し、一体感を感じる場所でもあります。私たちの新オフィスは、まさに会社の個性と価値観を表現し、組織的なつながりを感じられるように設計されました。それは単なるオフィスではなく、私たち全員のホームとして位置づけられています。」とパート氏は説明しています。

社会に「スローダウン」を促す

Goodeeの哲学は、「より少なく、より良く暮らす」。目的に沿ったシンプルさが、より優しく、より賢く、より美しい世界につながるという信念に基づいています。その価値観を共有するブランドから、オフィスやホームを豊かにするグッズを責任持って幅広く調達しています。

“私たちが提案するグッズの価値を通して、ホームでもオフィスでも人々がもっとゆとりを持つことに目を向けてほしいと願っています。”

バイロン・パート
共同創設者兼デザイナー

上: Goodee PET Lamps

下: AMQ Activ Pro 2.0 Height-Adjustable Desk

「場」に目的を設定する

伝統工芸品への保護と発展に対する同社の取り組みは高く評価されています。オフィスには、同社が厳選したアイテムが数多く置かれ、製品の背後にいる作り手やコミュニティを常に念頭に置く企業姿勢がスタッフはもちろん、ブランドパートナーやサプライヤーとの良好な関係を築くことにも役立っています。「当社が厳選した製品に囲まれることで、目的を持ったコミュニティ構築という使命を思い出させてくれます。」とパート氏は語っています。

その目的は、オフィスの場所の選定にも反映されています。新オフィスの建物は、カナダ、モントリオールの歴史的なComplexe Domparkビルの中にあったウール紡績工場で、Bコーポレーション認定企業*によって管理されています。「この建物と私たちは、Bコープ認定という同じ価値観のもとに運営され、その共通点があることが大きなポイントでした。毎日、同じ価値観を持つコミュニティに囲まれていることが、私たちにとってどれほど貴重かつ刺激的であるか、言葉では言い表せません。」とパート氏は述べています。

*Bコーポレーション認証(B Corporation)とは、利益と目的のバランスを考え、社会的・環境的な影響を評価し、透明性と説明責任の最高基準を満たす企業に発行される国際的な民間認証制度。2023年8月現在、92カ国、161業種、7,351の企業や団体に付与されています。

Embracing the Human Factor

人間性を尊重する

人間主体の製造スペースを創出する

工業製品を扱う産業は、主に電子商取引の拡大とニアショアリングの台頭によって世界的に活況を呈しています。多くのメーカーはサプライチェーンのさらなる混乱によるリスクに備え、生産拠点を最終消費地に近い国や地域に移転し始めています。そして、新たに何千もの製造、流通、倉庫施設が出現し、熟練した経験豊富な人材の獲得競争は熾烈化する一方で、離職率が60%にも達する企業もあり、直面する課題が多いのも事実です。

ニアショアリング(拠点再配置)の波
世界有数の産業用ロボットメーカーであるABBの2022年度米国と欧州の企業経営層を対象にした調査では、欧州企業の74%と米国企業の70%が、最終消費地に近いところでサプライチェーンを構築する計画を立てていることが明らかになった。例えば、メキシコ、トルコ、モロッコなど比較的人件費が低く、米国と欧州に地理的に近い国では、今後、産業セクターが成長すると予想されている。

製造スペースは、主には効率、安全性、収益性を重視して設計されています。

画一的で刺激がなく、暗く騒がしい製造スペースには、上司や同僚との雑談、プライベートな通話、休憩のための居心地の良い場所が欠落しているのが一般的です。しかし、ギャラップ社の最新調査によると、従業員ウェルビーイングを実現するための対策を講じている企業では驚くことに離職率が低くなっています。このことからも分かるように、企業の経営層は、従業員の健康や幸福感といった包括的なウェルビーイングに注力し、製造や倉庫などのスペースを見直すべきです。

まずは行動に移す

メキシコ、シウダードフアレスにあるBoschの製造施設は、世界的な自動車メーカーが製造スペースを変革してから従業員満足度やエンゲージメントが向上したことに着目しました。「企業の成長に合わせて施設も変化すべきであることは理解していました。製造とオフィスの部門間での連携不足、特に管理職同士の間の物理的な隔たりがコミュニケーションの障壁になっていました。また、仕事の成果とウェルビーイングを高めるために、誰もが公平に利用できる多種多様なスペースの設置は不可欠でした。」と同社の製造担当副社長のステファン・フィッシャー氏は述べています。

まずは、オフィスと工場の従業員間の可視化と透明性を高め、信頼関係と一体感を築くために大きな窓が設置されました。包摂的かつ刺激的な環境をつくるために、屋外スペースの再設計、少人数用の会議室、囲いのあるブース、コンピュータ専用エリアなどの追加、会社の価値観や文化を表現するアート作品を設置するなど、空間を通して企業のメッセージを明確に打ち出す施策を実行しました。

より豊かな仕事体験をデザインする

PepsiCoでも同様の変革が起こっています。同社のグローバルワークプレイス戦略およびデザインを率いるクリスティーナ・アルフォンソ氏はこう語っています。「現在、フロントラインに重点を置き、オフィスの場所に合わせたサプライチェーンの拠点を構築しています。快適な仕事スペース、休憩室、ロッカー、更衣室、託児所など、従業員にとって重要なエリアを特定し、働いてみたい/出社したいと思える空間づくりを目指しました。」

現在、スチールケース自身も製造スペースの見直しを進めています。「私たちが実行した最大の変革のひとつは、部門横断的なチームを製造部門と同じ場所に配置したことです。品質とエンジニアリングの両担当者の席を近くに配置することで製造プロセスをより効率化できました。また、情報共有を密に図れたことで透明性が高まり、パートナーとしての連帯意識も生まれました。こうした環境下では、誰もが尊重されていると感じ、信頼関係の構築に大きく寄与します。」と説明するのは米国製造部門ディレクターのロバート・ヘンドリクセン氏です。

さらに、スチールケースでは、従業員が休憩中や仕事の前後にゲームで遊ぶスペース　(P25の「ゲームの効果」を参照)を新たに設置。それによって仲間意識が育まれ、より強固な組織文化の構築やストレス緩和にも役立っていることが証明されています。また、マッサージ、医療スペースなどの健康増進サービスにも力を入れています。メキシコのレイノサ工場では、自然光が入るサンルーム、個室型ブース、休憩スペース、少人数用会議室、また、インドのプネ工場では、働く親を支援するための託児所やベビールームなどが新たに設置されました。

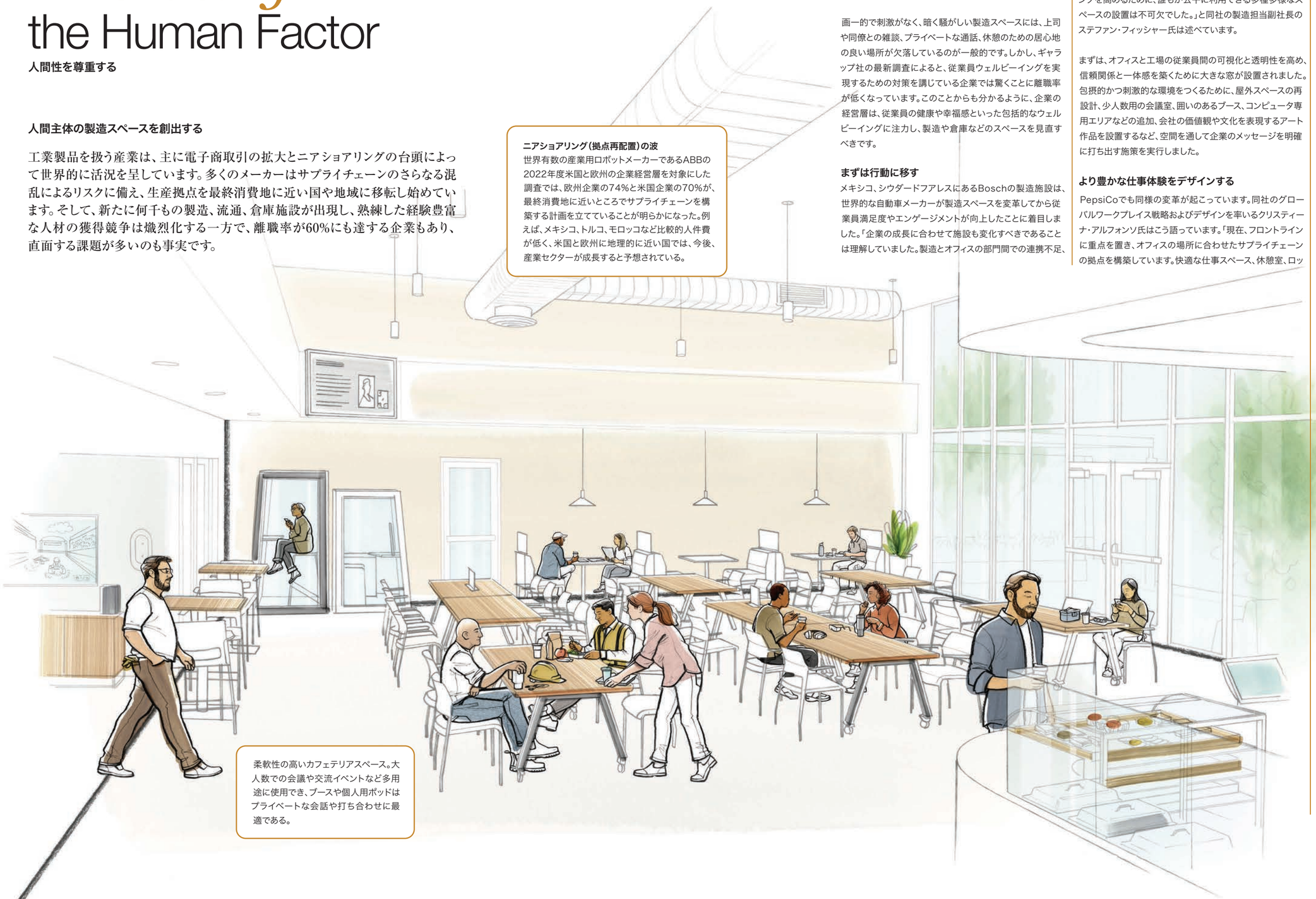
個 + チームのためのスペース

スチールケースのデザイナーが提案する「より快適に、より豊かに働けるスペース」とは：

多機能ソーシャルスペース ― 集う、食事をする、休憩をとる、活力を取り戻すためのスペース。優れたデザイン性と高耐久性素材が特徴。大人数での会議、トレーニング、ゲームでの使用を念頭に置く。情報共有のためのデジタルとアナログ両ツールを完備。

高プライバシー集中スペース ― 個室またはオープンでの間仕切り付き半密閉スペース。経営層や管理職との対話、プライベートな会話、メールチェック、オンライントレーニングの受講などで使用。

家具・シェード完備の屋外スペース ― 食事をする、リラックスする、外気を吸って活力を取り戻すなどの目的で配置。特に自然光が入らない建物で働く人にとっては重要ポイント。軽い運動を促す散歩道やスポーツ活動エリアがあればさらに良い。



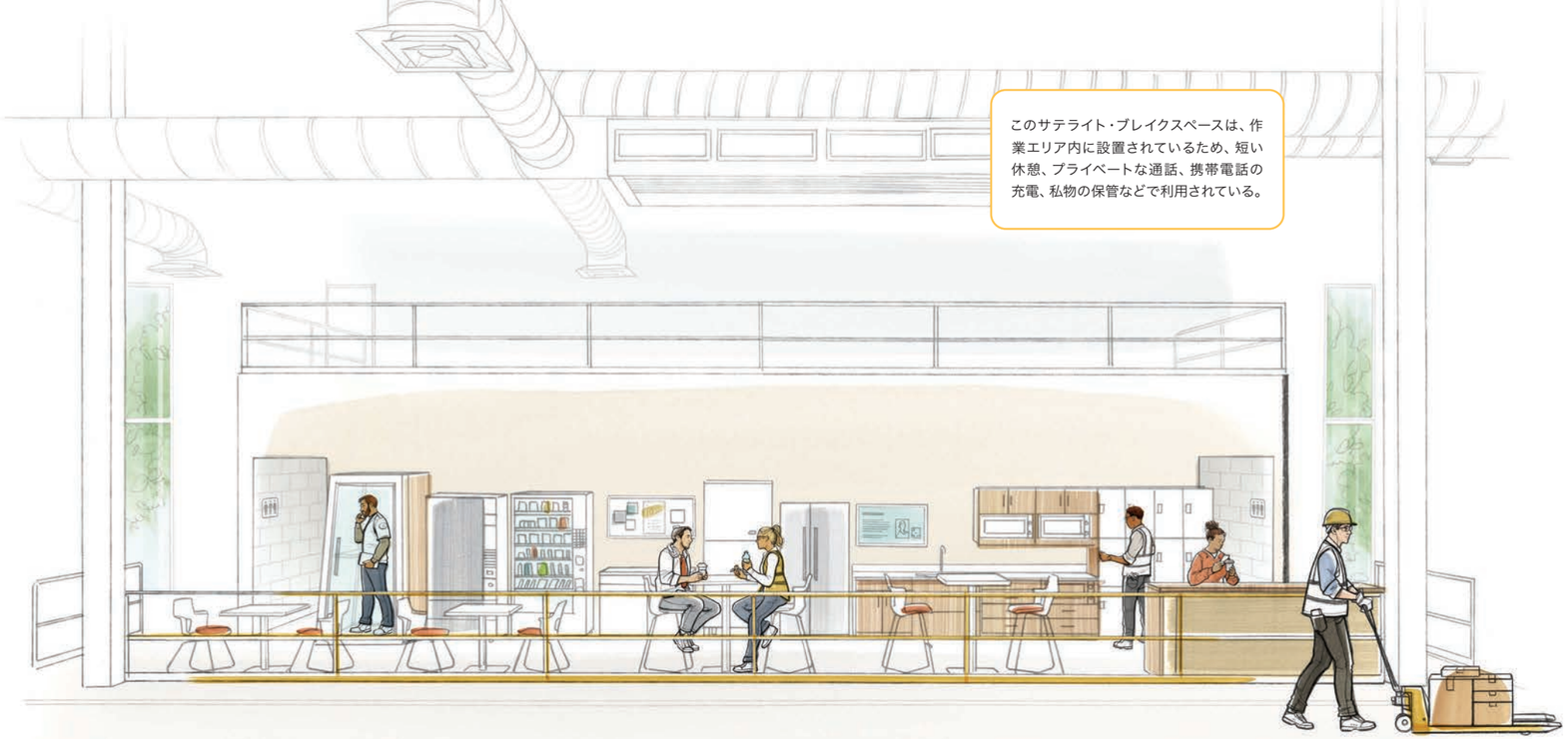
柔軟性の高いカフェテリアスペース。大人数での会議や交流イベントなど多用途に使用でき、ブースや個人用ポッドはプライベートな会話や打ち合わせに最適である。

ウェルビーイング・ハブ ― 安らぎと落ち着きを感じる多彩な小スペース。短い仮眠、祈祷や1人での時間、マッサージ、授乳中の親のための清潔でプライバシーの高いスペースなどさまざまなニーズに対応する。

サテライト・ブレイクスペース ― 短い休憩、私物の保管、軽食、携帯電話の充電、同僚との雑談などのための場所を提供する。

コラボレーションスペース ― 毎朝のスタンドアップミーティングや定例会議、問題解決のためのグループ用スペース。リモートメンバーとのウェブ会議用ツールや、情報共有を促すホワイトボードなどのアナログツールも装備されている。

企業の製造施設にもこのような多種多様なスペースが登場し始めており(P22の「ウェルビーイングのためのスペース設計」を参照)、そこで働く人と組織の両方に大きな変化をもたらしています。「多くの従業員はこの新スペースに驚き、それは日々の努力へのご褒美だと感じています。こうした変化が従業員にやる気や愛着心を植えつけ、結果として業務での成果向上につながりました。」とフィッシャー氏は述べています。



このサテライト・ブレイクスペースは、作業エリア内に設置されているため、短い休憩、プライベートな通話、携帯電話の充電、私物の保管などで利用されている。

毎朝のスタンドアップミーティングやその他の会議は、製造エリアに隣接した個室タイプのコラボレーションスペースを利用。リモートメンバーとのウェブ会議用ツールや情報の視覚化のためのホワイトボードなどのアナログツールも装備されている。

デザイナー向け:
プランニング
アイデアを
ダウンロード

デザインへのヒント

家具
- デザイン性だけでなく耐久性も考慮する
- 休憩・交流エリアに電源を設置する
- 作業エリアに隣接して個室ブースを配置する
- 作業エリアに隣接してロッカーを配置する
- 柔軟性に考慮して設計する

照明
- 自然光を取り入れる
- 交流エリアの蛍光灯を暖色系にする

色、バイオフィリア + 素材感
- バイオフィリアを取り入れ、家具や壁の色を温かみのあるものにする
- 汚れやほこりが目立つスペースには暗めの色を配色する
- 家具や滑り止めの床には、拭き取りやすく掃除しやすい素材や仕上げを選択する

WB Work Better Podcast

オフィスでの「幸福感」を広げる

オフィスで「幸福感」を感じる瞬間をつくるデザインについて対話を続けましょう。スチールケースは、「より豊かに働く」をさまざまな視点から探り、Work Better ポッドキャストを通して発信しています。ご興味がある方は是非ご視聴ください。

S4:E1
Sparking Joy at Work with Ingrid Fetell Lee
職場での喜びを生む

S4:E2
Is Our Attitude About Work Broken? with Barry Schwartz
仕事に対する態度は変化しているのか?

S4:E3
Creating a Brain Healthy Workplace with Upali Nanda
脳を健康にする職場環境をつくる

S4:E4
The Science of “Aha!” Moments with Alex Soojung-Kim Pang
脳科学から考える「なるほど!」と感じる瞬間

S4:E5
Why You Need More Women on Teams with Anita Woolley
チームにもっと女性が必要な理由

S4:E6
Embracing How Different Our Brains Are with Elena Sabinson
脳の違いを受け入れる

S4:E7
Breaking Our Obsession with Generations with Mauro Guillén
世代への執着を断つ

S4:E8
Seriously, We Need More Humor at Work with Jennifer Aaker + Naomi Bagdonas
もっとユーモアを持って仕事をする

エピソードは2024年4月23日から毎週公開

Listen. Learn. Subscribe.
Visit steelcase.com/podcasts

LISTEN ANYWHERE

Joy Unboxed

「幸福感」を引き出す
気分を上げるアイテム

大好きなモノに囲まれて暮らすとインスピレーションが湧き、やる気がでて毎日が幸せな気持ちになります。

Joyfulの著者イングリッド・フェテル・リー氏はこう語っています。「オフィスは頭で考えること、つまり、仕事に集中でき、気を散らすものがない効率重視かつ仕事をこなす場所であることを前提に設計されていました。そして、今、オフィスでの生産性は、心で感じる、つまり、人間の心理や感情と深く関係し、そのすべてがつながっていると理解され始めています。」

スチールケースとそのブランドコミュニティは、私たち一人ひとりに固有の喜びや幸福感を引き出すための幅広いプロダクトを生み出しています。個々の無限のポテンシャルを引き出す仕掛けは、オフィスで仕事をする喜びを引き出し、愛着や癒し、やる気を増進し、従業員が幸福感を実感できる環境を創出します。

New!

Coalesse Ensemble Lounge System
Coalesse

機能的に「集う」ためのソファ。座っている間も姿勢の変化を継続的に促す背もたれが特徴的で、色、素材、スクリーンでカタチづくる無限の構成を可能にするモジュール性がレイアウトの自由度と個性をプラスします。

New!

Dovetail by Designtex
Steelcase

New!

Bento Sofa
m.a.d

New!

Mediterranean Essence
Viccarbe

Table Power Enhancements
Viccarbe

電源ユニットはBurin、Foro、Trestleで
標準仕様に（南北アメリカ限定）

New!

Noha Seating
Viccarbe

New!

Steelcase Karman™ High Back
Steelcase

AllowMe
Orangebox

スチールケース・ブランド・コミュニティ

DESIGNTEX　coalesse　orangebox
Steelcase LEARNING　AMQ　viccarbe　Smith System
zoom　Steelcase　Microsoft
WENDELBO　Bolia.com　TAIGA CONCEPT　Commune
m.a.d.　logitech　Polyvision
grado　segis　HALCON

New!

Social Collection

m.a.d. furniture design x Steelcase

m.a.d.限定コレクションが生み出す新しいタイプのシェアスポット。ナチュラルな雰囲気と
その柔らかなフォルム、遊び心溢れるアクセントカラーがスペースに楽しさを加えます。

Ace
Viccarbe

Dragonfly
Segis

Petal
m.a.d furniture design

Capri Chair
m.a.d furniture design

Sling outdoor chair
m.a.d furniture design

Piper Forest Sofa
m.a.d furniture design

Camel
Segis

Collar Lounge chair
Wendelbo

Creating the new Gathering Place

魅力溢れる集いの「場」をつくる

今、オフィスは人が「集い、つながる場」へと変貌を遂げています。しかし、働く人にとって、そこは出社したい、利用したいと思える場所として機能しているのだろうか。空間デザインという観点から、人が自然と集まり、楽しく協働できる「場」づくりを探ります。

この問いに常に取り組んできたのが、オフィス家具を補完する業界初のデザイン家具ブランドのひとつであるコアレス(Coalesse)です。人が集い、共に働くあらゆるシーンを念頭に耐久性に優れたモダンな家具を生み出し続けています。コアレス・デザイングループは、長年積み重ねた研究と実験の一貫として、人々がカジュアルに交流しながら働く際にどんな空間に身を置きたいと感じるかの意識調査を実施しました。人間のポジティブな感情を引き出しながら仕事のパフォーマンスを上げる。その調査結果をベースにデザイナーのマーカス・マーシャルとフロリアン・シュルツの両氏が描いたのが、家具デザインが人間の心理や行動を左右することを前提に設計された美しくも巧みにつくられたソファでした。

マーカス・マーシャルとフロリアン・シュルツの両氏は、ドイツ、ミュンヘンに構えるコアレス・スタジオから、魅力溢れる集いの「場」と位置づけたCoalesse Ensemble(コアレス・アンサンブル)の設計開発について本誌のインタビューに応じました。

本誌:まず、Coalesse Ensembleの開発はどう始まったのですか?きっかけとなった知見等はありましたか?
マーカス:参考にしたのがスチールケースの最新の調査結果でした。人々はオフィスに何を望んでいるのか。つまり、人と出会う、交流する、創造する、集うといった目的です。そこから、居心地の良さと仕事での高いパフォーマンスを同時に実現し、その体験そのものを楽しめるようにするにはどうすればよいかと考えました。
フロリアン:調査結果に加えて、人を空間に招いて彼らのニーズを直接聞き出し、そのユーザーの声を開発の中心に据えました。設計上の決定は、決して好きか嫌いかという感情的基準に偏らないように、データに基づいた合理的判断を大事にしました。
マーカス:また、ソファなどカジュアルな家具を揃えた会議室だと、そこでの行動や習慣がどう変わるのかを調査しました。まるで自宅でおしゃべりしているような感覚を味わえるといった意見もありました。ソファに機能としてのサポート力を持たせるために従来のものより座面を少し高く、少し硬めにしました。そのため、パソコン作業をしても背中が丸まったり沈み込んだりすることなく、長時間でも快適に仕事を続けできるのです。

本誌:設計コンセプトにおいて、社内の風景や眺め、自然といった要素はどう具体的に取り入れられましたか?
フロリアン:常に念頭にあるのがバイオフィリア効果でした。空間の中でソファを流れる川や起伏ある丘のように配置できないものかとか。その結果、ソファの長さと高さの両方を駆使して曲がりくねった丸みのあるカタチに辿り着きました。自然界には存在しない鋭角なカタチを避け、まるで自然やオアシスの中にいるかのような感覚になることを狙いました。
マーカス:私たちは、オフィス空間の規則的で直線的、グリッドのようなパターンから、不規則で有機的な丸みのあるパターンへ変化させたいと考えました。何ひとつとして同じものがない自然界のように、この家具は無限かつ独特な方法で空間に展開することが可能なのです。
FS:この「風景」という概念を設計に取り入れることで、硬い幾何学的地形が柔らかみのある地形に変化し、前後、左右360°の眺めを確保でき、空間にある種のリズムが生まれました。
マーカス:すべての要素に丸みを加えていって、家具そのものを自由で楽しいと感じるカタチに仕上げたかったのです。

本誌:「集う」を機能させるために、デザインのディテールで気をつけたことはありますか?
マーカス:「座る」ことは姿勢から始まります。よって、ソファでありながら背もたれに調節機能を持たせることは必須機能でした。しかし、従来の硬いメカ装置ではなく、シンプルなストラップを背もたれに内蔵し、背もたれ角度を座面上で調整できるようにしました。
フロリアン:張り地も高機能テキスタイルを使用しています。家庭用のソファにありがちな柔らかすぎて沈み込みが激しいものではなく、耐久性に優れています。また、間仕切りとしてのスクリーンは、プライバシーを確保したいあらゆる場所に設置が可能で、その組み合わせも自由自在です。

本誌: Coalesse Ensembleは、シーンによってどんな組み合わせで利用されるのですか?
フロリアン:ユニット式なので組み合わせは、曲がりくねった形状、ブース型や蜂の巣型など無限大です。そして、時代のニーズや利用人員の変化に合わせて追加や再構成も容易です。
マーカス:組み合わせるピースの数と種類、カラーリングや素材によって、その表現方法は無数で、その丸みのある形状は他製品ともフィットします。
FS:私たちは、自由自在で無限な表現が可能な魅力的なパーツキットを設計デザイナーに提供したいと考えました。モジュール式なので再構成も容易、また、間仕切りのニットスリーブ機能で張り地交換が可能なため空間をいつでもリフレッシュできます。

本誌: Ensembleとは「一緒に」という意味ですよね。その製品名の意図は何ですか?
マーカス:製品のピースが自然に組み合わさって、「立ち寄りたい」、「一緒に過ごしたい」と思える「場」をつくるということです。
フロリアン: Coalesse Ensembleとは「人間関係を築く」を仕掛け。それが私たちの目的です。

Coalesse Ensembleのすべての機能は、シンプルな方法で身体をサポートするように設計されています。プルストラップ機能を内蔵したパフォーマンスバックは、必要に応じて楽に姿勢を調節でき、家具と身体の継続的かつ快適な関係性を構築しました。

Connecting to Culture

組織文化とつながる
インドのANSRがオフィス再生で
分散型チームの連携強化を図る

オフィスの目的や役割とは何か?ここ数年、この問いに多くのメディアや企業の経営層が関心を持ち、注目度を集めています。そして、今、世界の多くの企業が、働き方の変化に応えてオフィス空間の再構築や再生に多額の投資を続けています。

上: Mango Lounge Chair, Floema Table, Lilin Sofa - Wendelbo (available in Asia-Pacific)

課題のひとつは、分散型ワークの増加とそれが組織文化に与える影響度合いです。ANSRのCEO兼創設者であるラリット・アフジャ氏はこう述べています。「グローバル企業は、会社の事業目標や組織文化に関して従業員の理解や共感をもっと得られるように努める必要があります。世界に分散するチームが自社ブランドや組織文化に触れることで、会社への信頼感を醸成できるようにすることが結果として事業を成功させます。」

過去17年間、アフジャ氏は、インドなどの才能豊かな場所にグローバル・イノベーションセンターを設立することで、グローバル組織のデジタル変革を支援してきました。ANSR(アンサー)は、人材管理サービス、運用サポート、不動産ソリューションを提供する市場リーダーとして、分散型グローバルチームの構築と運用の簡素化に尽力しています。現在、業務プロセスの変革、IT人材の登用や育成を急速に推進しているTarget、Wells Fargo、PepsiCo、FedE、Loes、3M、Delta Airlines などのグローバル企業のニーズに応えるために100を超える拠点を開設しています。

下: Steelcase Karman Chair, Coalesse
Portrero415 Conference Table

オフィスでつながる

こうしたグローバル企業は、「オフィス」の存在意義をさらに明確にし、重要視しているとアフジャ氏は言います。仕事が世界に分散している現在、オフィスの役割がかつてないほど問われています。「従業員がどこにいても、組織への帰属意識を感じられること。そのためには、組織文化を体現できるオフィス環境をつくり上げることが肝心です。従業員が会社の組織文化とつながらなければ、TargetやDelta Airlinesにはなれません。この組織文化につながることが今日のオフィスの最も重要な役割なのです。」とアフジャ氏は説明しています。

「オフィスは、従業員にとって企業目標や価値観を体感できる場所でなければなりません。そうすることで、従業員は会社の目標を共有し、組織内の連帯感を高めながら自社の製品やサービス、顧客に誇りを持ちながら仕事に打ち込めるようになります。」

ANSRは、インドのバンガロールに新たにエクスペリエンスセンターを創設。同センターでは、組織文化を体現できるようなさまざまなスペースのプロトタイプを設置し、その活用実態を実験的に試しています。アフジャ氏は、同センターをホームセンターのように、人々がオフィスをどんな雰囲気にしたいかを自ら探求する場所として位置づけています。

従業員を魅了する

コラボレーションや学習、人間関係の構築がオフィスへ出社する目的となると、オフィスにおいて多種多様かつ人を魅了するスペースや機能、アメニティをいかに創出するかが鍵になるとアフジャ氏は言います。ヘルシーな食事などの選択肢を揃える社内カフェ、ラウンジエリア、ジム、会議室、託児所、医務室など、従業員の心身の健康を促す健康経営オフィスにも今後ますます注目が集まっていきます。

「従業員の労働意欲や満足度、定着率や生産性と、従業員の心理的安全性や刺激などの心理的効果の間には直接的な相関関係があることが分かっています。オフィスにはある種の没入感や斬新性が必要なのです。いかにそこで働く人の感性を刺激するオフィスを設計するかを考え、顧客サイドもオフィス空間やアメニティ、選ぶ素材など細部にわたって手を抜かずに追求すべきなのです。」とアフジャ氏は語っています。」

Conversations

Introducing Dr. Upali Nanda

HKSアーキテクツのパートナー兼
グローバルプラクティスディレクター
ウパリ・ナンダ博士が語る

社会全体でメンタルヘルスを優先する傾向が高まっています。その改善を先導しているウパリ・ナンダ博士は、健康増進のためにジムに通うのと同じように、今後、脳や神経の健康に重きを置く取り組みが不可欠だと語っています。

本誌: 脳の健康に配慮したオフィスに関心を持っているのはなぜですか?
ウパリ: 脳が健康であれば、生涯に渡って自分の潜在能力を最大限に発揮できるからです。世界保健機関は、脳の健康を認知、感覚、社会的情緒、行動、運動の各領域での脳の機能状態と定義しています。私たちは疾病予防のための身体増進、一方、脳の健康は精神障害、慢性的ストレス、急性うつ病、認知症を防ぐための認知増進と認識しています。

本誌: アメリカ、アトランタで始動した「脳に健康的なオフィス」のプロトタイプについて教えてください。
ウパリ: 私たちは、脳の健康センターの協力を仰ぎ、身体と同じように脳も訓練が必要だと訴えています。この習慣を確立するには適切な「場」が必要なだけでなく、いつ、どうやるのかの指導も必要なのです。さまざまな戦略を通じて従業員は集中力を高め、タスクの優先順位づけができるようになり、最後に、タスクを完了するのに最も相応しい環境を選択できるように指導もしています。

本誌: 貴方は、デスク中毒を断ち切る方法を学べるとおっしゃっていますが、それは具体的にはどういうことですか?

Work Betterポッドキャストでは、
ウパリ氏へのインタビュー完全版を
ご視聴いただけます。

ウパリ: 多くの仕事が分散化し、多くの人が1日のほぼ半分を集中ワークに、残りの半分をコラボレーションに費やしています。しかし、時間の70%は同じデスクで過ごしています。それはなぜなのかということです。マルチタスク化やタスクを頻繁に切り替える行為が脳に多くの負担をかけています。1日を通してのタスクはマルチにわたるのになぜ、オフィスでも最も仕事に相応しくない場所を移動もしないで利用しているのかという問題提起です。

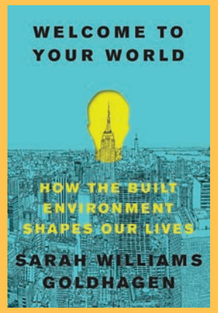
本誌: オフィスでの行動変容をどうサポートしているのですか?
ウパリ: まずは従業員が仕事をする場所を選ぶ前に、自分で自分のオフィス時間をきちんとデザインすることを勧めています。何を達成したいのか、何を持って移動したいのかなどです。1箇所に留まっていては新たな体験の創出にはつながりません。

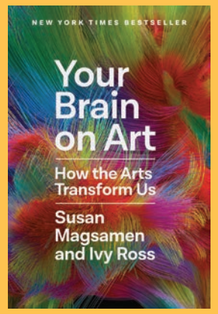
本誌: 貴方は「脳に健康的なオフィス」を豊かな環境と表現していますね。それは具体的にはどういうことですか?
ウパリ: 脳科学から見た豊かな環境とは、運動、感覚、社会的および知的な側面から脳に刺激を与え、脳が鍛えられるということです。オフィスには、集中し、交流しながら社会的につながり、共創し、考え、休息する「場」が求められます。豊かな環境とは、これらの要素をすべて満たし、「動きながら、感覚を刺激する」ことを可能にするのです。

最後にひと言

ウェルビーイングは、ヨガマットや休息といった言葉とともに非常に狭い定義で語られがちです。人間の秘められた可能性を最大限に引き出すには、より広い定義、つまり、脳の健康維持に役立つ習慣にもっと投資することを考えるべきです。

ウパリ氏が現在読んでいる本





World of Learning

学校教育はこう変わる

学ぶものの興味関心を惹きつけ、交流を促し、ウェルビーイングを育み、環境を活性化する空間づくりは、主体的学びと協調性を促進し、生徒や学生の成長を支え、自立へと導きます。今、世界中の多くの教育機関がその教育上のメリットを実感し始めています。

パラグアイ日本人学校

パラグアイのアスンシオンにあるパラグアイ日本人学校。そこに初めて足を踏み入れると、大勢の生徒が興奮しながら訪問者を迎え入れている様子に誰もが驚くでしょう。こうした雰囲気は教育機関には珍しいからです。

「多くの人がその風景に驚きます。それはまさに私たちが生徒に指導してきた尊厳と道徳的行為が表れた姿だからです。」と語るのはパラグアイ日本人学校の校長パトリシア・トヨトシ氏です。

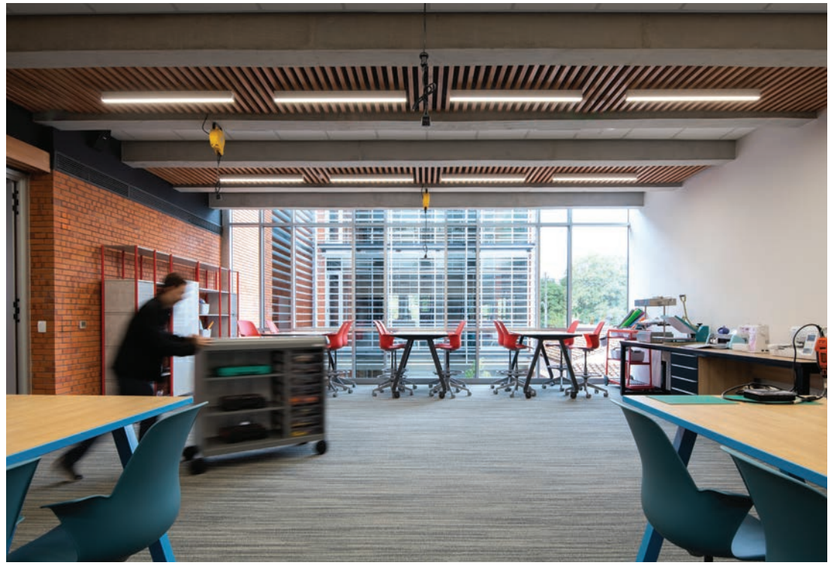
同校は、パラグアイに在留する日本人の子どものために質の高い教育を提供するためにトヨトシ氏の父親によって設立されましたが、現在はその生徒の多くが地域住民です。目的も日本文化を学べるというだけではありません。3Dプリンターを使ってモデルを制作する、機械電子工学を応用してシンプルかつスマートなシステムを開発する、ロボットを設計する、コンピューティングとAIを活用して高度なサプライチェーンシステムを設計する、クッキングやファッション、映画制作や編集など、その学びの内容は多種多彩で広範囲に渡っています。

数年前にトヨトシ氏が学校の経営を引き継いだ時は、その授業カリキュラムはまさに旧態依然としたものでした。整然と並ぶ机やイスは固定され、教室の前方で教師が一方的に話すという授業風景でした。その風景を完全に変化させ、学習スタイルにイノベーションを起こしたのは「クリエイティブビル」の増設でした。幅広い分野の教育に特化した均質化された教育からの脱却でした。

「この建物が子どもたちの隠された才能を引き出す装置になったことが画期的なのです。歴史ある建物で生徒同士が協力し合いながら、自ら何かを考え、生み出す。まさにこれからの社会で求められているスキルの習得なのです。」とトヨトシ氏は言います。

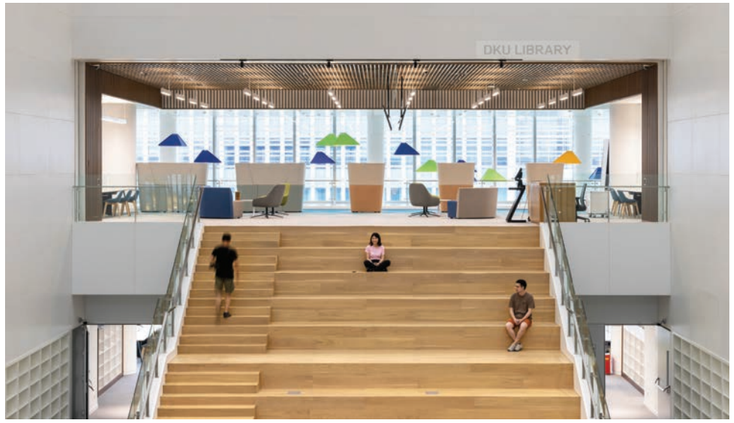
この新たな画期的スペースの拡張が航空宇宙/天体力学の全国大会での優勝を導いたとして評価されています。「子供たちが互いに協力し合いながら集団で学ぶ姿は私たちが長い間望んでいたことです。」

「私たちの使命は、生徒たちが将来、国を支える価値ある国民になることを支援することです。私たちは、質の高い学びの価値を信じ、その学力向上を後押しすること。それが当学校の存在意義であり、私たちが環境に投資する理由です。」とトヨトシ氏言います。



パラグアイ日本人学校 | 上: Smith System Planner Studio Tables, Smith System Cascade Storage, Steelcase Node Stool

> “学びとは、人を成長させ、充実した日々をもたらします。誰しも何かしらの才能を持ち合わせています。自分の興味と才能を見出し、伸ばすことで、最終的にそれを生かすための道が見つかります。”
>
> **パトリシア・トヨトシ**
> *校長*



デューク崑山大学 | Above: Coalesse Bob Seating, Orangebox Away from the Desk Lounge

デューク昆山大学

新興の大学として急成長を遂げている中国のデューク昆山大学。増え続ける入学志願者に対応するために施設の拡張を決意する中、改善すべきさまざまな課題に直面しています。

アメリカのデューク大学と中国の武漢大学の米中提携として10年前に設立されたこのリベラルアーツスクールは、さまざまな革新的な授業プログラムで世界中から注目を集めています。同大学の課題は、地域の伝統文化に根ざしつつ、モダンかつ最先端の施設でいかに創造的思考を持つグローバル人材を養成し、輩出するかということです。

「当校のビジョンは、昆山の地域コミュニティに根ざした小規模校でありながらも、教員やスタッフを含めてのグローバルな人材育成を目指すことです。ローカルな地域コミュニティの一部でありながら、その活躍は世界中に広がっています。」と語るのはデューク昆山大学の学務担当副学長で博士号を持つスコット・マケアーン氏です。

学生とスタッフの人員増加に対応するため、同校は2,000人以上の学部生、1,000人の大学院生、数百人の教職員を収容できるように、新たに寮と教室、研究室の増設が喫緊課題でした。さらに学習体験の質を高めるために、図書館、交流スペース、コラボレーションスペース、ミーティングスペースが拡張され、グループのサイズ、プライバシーレベル、多様な姿勢がとれるなどの幅広い選択肢も提供しています。

マケアーン氏によると、目指すところは、空間が柔軟性に富み、人間の感性をいかに刺激しながら持続可能かつ包摂的であるかということでした。

> “当校のスペースづくりの根幹にある考え方は、長期に渡っていかに人々が健康的かつ快適に、そして、日々幸福感を感じながら学び、働けるかということでした。”
>
> **スコット・マケアーン博士**
> *学務担当副学長*

グラスゴー大学

スコットランド最大都市の古代建造物、また、ハリー・ポッターで有名な架空の「ホグワーツ」のような建物の上にそびえるグラスゴー大学は、西欧で最も有名な学問の中心地のひとつです。1451年に設立された同大学は、現在140カ国以上、29,000人の学生数を誇っています。伝統と数百年にわたる学術的卓越性の典型的な大学でありながらも、未来の教育センター構想にも力を入れています。歴史ある舞台で学生自らが自由な発想で考え、何かを生み出すイノベーション教育です。

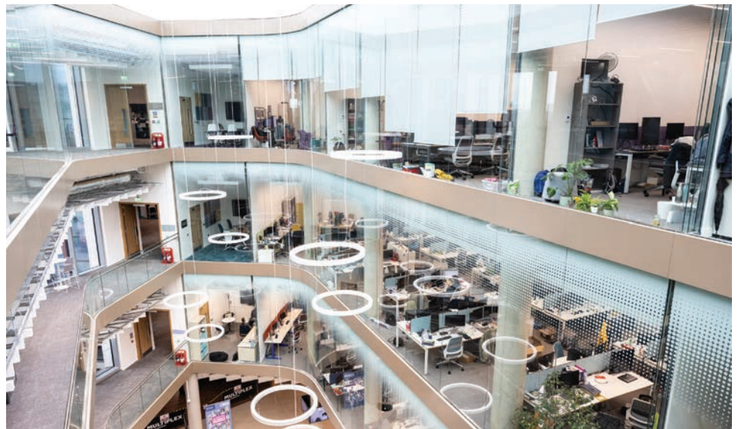
グラスゴー大学は、ここ10年間、テクノロジーのさらなる進展とコラボレーション重視のアクティブラーニングの普及によって変化する学校教育の在り方を目の当たりにしてきました。グローバル視点での授業展開とそのキャンパス拡張のためのインフラに対して多額の投資を行ってきました。

世界を変える研究分野のリーダー的存在として、大学の拡張の要となるのは最先端の新しいMazumdar-Shaw先端研究センター(ARC)です。600人の研究者と博士課程の学生が集まるARCは、グラスゴー大学の研究室の「新たな脈動」と言われています。この建物は、研究室の間の仕事を促進し、その真の可能性を最大限に引き出すように綿密に設計されています。研究者たちの日常を把握するため、大学はスチールケースの協力を仰ぎ、ワークショップを実施し、建物を使用する人々のニーズと要望を吸い上げました。その結果として、チーム間のコラボレーション文化を育むことが設計目標として位置づけられ、チーム間の円滑な連携が可能になりました。

また、異なるニーズの近接性、つまり、互いに密接に容易に交流できるように近隣にスペースを設置するなども重点に置かれました。こうして、研究者同士のカジュアルな雑談やコラボレーションの機会が生まれました。それに加えて、自分の仕事に応じて、どこで仕事をしたいかを選択しやすくなりました。

> “他の研究者と出会い、考えや情報を共有し合い、あらゆる可能性を探求できる空間を創出すること。それがこの建物の背後にある意図です。”
>
> **ニール・バウアリング**
> *プロフェッショナルサービス担当ディレクター*

グラスゴー大学



New Inclusion Center Welcomes Everyone

誰ひとり取り残さないインクルージョンオフィスのカタチ

柔らかな照明、集中用シェルター、誰もが利用できるカフェ。米ミシガン州スペシャルオリンピック統合スポーツ&インクルージョンセンター(SOMI)内の空間は、社会的に弱い立場にある人を誰ひとり取り残さず、気分よく共創できるように設計されています。この種の施設としては初めての同建物は、さまざまな障害を持つ人々へのサービスを提供する9つのNPOの本拠地としても利用されています。

スチールケースは、地元の販売代理店であるCusterと共同で、お客様であるNPO幹部とユーザーの声を吸い上げるために、インクルーシブデザイン・ワークショップを実施。徹底的にお客様の声を聞きながら、課題を吸い上げ、それを設計デザインに反映させています。

コミュニティ・カフェ
ユーザーの声を抽出してデザインに落とし込んでいく作業から、チームが集う場所、フードやドリンクを片手にリラックスしながら休憩する場所などさまざまな空間が生まれました。また、当初のデザインに対しては、照明が明るすぎることでいかにもオフィスという感じがする、バータイプの高めのテーブルは避けた方がいいという意見が寄せられました。結果として、照明を弱め、ハイテーブルは誰もが楽しめるものへと変更、温かみのある丸テーブルと明るめの照明は、対面コミュニケーション重視のエリアに再配置されました。

左: Steelcase Simple Tables and Chairs, AMQ 3F Hanging Panels + Rail

> “まるで自分の家にでもいるかのように、誰もが無理なく、快適に利用できるように工夫されています。”
>
> **ジェシカ・ストランツ**

ゲートウェイ・スペース
仕事モードから休憩モードへ。休憩スペースは、仕事のストレスや刺激過多を緩和したり、リラックスするために欠かせません。祝賀会などの集いで刺激を受け過ぎたと感じた後、多くの人がスチールケースのポッド・テントに避難していることも観察されました。テントに隣接するカフェブースは、間仕切りでプライバシーも確保され、ローテーブルにすることで車椅子の人も簡単に立ち寄って参加できるコラボレーションスポットして機能しています。

左: Steelcase Pod Tent, Steelcase Campfire Lounge, Moooi Celestial Rug, Coalesse Lagunitas Lounge + Table, Blu Dot Turn Tall Side Table + Low Side Table

グリーティング・エリア
感覚過敏症やその他の障害を持つ人々は、入り口付近やロビースペースでドキドキしたり、不快感を感じたりするという声を反映させ、人を迎え入れるエリアは正面入り口を入った壁の背後に設置されました。カーペットを視覚的なゾーニングとして利用し、車椅子やその他の移動補助具でも通行しやすいようなバリアフリーデザインを徹底させました。チェアも低めでがっしりしたものを選び、車椅子でもシームレスに移動できるよう設計されています。ソファ席は、全員が向き合って対話ができるように配置され、片側に背の高い間仕切りを設置することでプライバシー確保だけでなく、手話によるコミュニケーションの背景としても活用できるようにしました。

右: Orangebox Away from the Desk Lounge

Of Interest

スチールケース、マイアミのポップアップストア

Be Our Guest

スチールケースが展開する世界の3拠点、マイアミ、ダラス、シンガポールの新スペースでは、感性を刺激し、仕事での喜びを増幅する空間づくりをハイブリッドワーク向け新コレクションとともにご体感いただけます。

カラフルな壁画で知られるマイアミの活気あるウィンウッド地区のポップアップスペースが2024年12月までオープン。ダラスとシンガポールのワークライフセンターでは、ウェルビーイングを重点に置いたハイブリッドワークエリアを新設。訪問ご希望の方は地域のスチールケースまでお問い合わせください。

臨場感溢れる遠隔診療

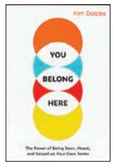
スチールケースとロジテック（ロジクール）がハイブリッドコラボレーション体験向上に向けて共同開発する新コンセプト、プロジェクト・ゴースト(Project Ghost)。没入型技術を駆使し、実物大のリモート参加者と目線を合わせながら、対面に限りなく近い臨場感で対話ができる極上のプライベート空間が遠隔医療の分野にも応用されようとしています。2023年ヘルスケアデザインカンファレンス&エキスポにおいて、遠隔医療体験の目玉として脚光を浴びました。

うつ病などのメンタルヘルスや薬物依存等に対する遠隔診療やオンラインケアの導入が急加速しています。「遠隔診療は、基本的に外来の対面での治療と同じくらい効果的で、かつその継続率は格段に高くなります。」と語るのはノースウェスタン大学フェインバーグ医学部の行動介入技術センター所長であるデビッド・モーア博士です。

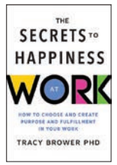
ゲームの勝敗を左右する没入快適空間

スチールケースは、世界で最も歴史が長く、世界最高レベルの才能が集まるeスポーツ国際大会のひとつ、インテル・エクストリーム・マスターズと提携し、競技者の快適さと身体の動きを追求するゲームステーションの開発に着手しました。シドニーで開催された同イベントでは、足の痛みや首・肩の緊張を軽減し、競技での集中力を高める高性能なエルゴノミクスチェアと上下昇降デスクで構成されたスチールケース・ゲーミング・センターが注目を集めました。

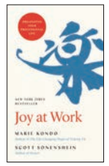
おすすめの一冊



You Belong Here
互いを理解し、
尊重することが
組織の質を高める
キム・ダブス
スチールケース・ESG＋
ソーシャルイノベーション
担当副社長



The Secrets to Happiness at Work
仕事の目的とやりがい、
充実感を得る方法
トレイシー・ブラウアー社会学者
兼スチールケースワークプレイス
インサイト担当副社長



Joy at Work
仕事周りの整理整頓
マリエ・コンドウと
スコット・ソネンシャイン

Inspiration

アーティストのジェイソン・キグノが先住民族アニシナベ族の頭飾りに着想を得て彫った彫刻。一つから生まれた二つの別々の部分で人類の相互関係を象徴的に表現しています。

キグノ氏の生まれ故郷、米ミシガン州グランドラピッズにあるスチールケース・ラーニング+イノベーションセンターで制作した作品は、伝統文化として尊ばれている「7人の祖父」、つまり、謙虚さ、勇気、正直さ、知恵、真実、尊敬、愛を称えています。スチールケースは、過小評価されているマイノリティコミュニティの多様なアーティストの作品に投資するなど、彼らの存在が認められ、尊重される社会の構築を支援しています。

“私の文化では、人間が創作するものすべてにポジティブな感情を吹き込むことを大切にしています。”

ジェイソン・キグノ
アーティスト、アシナベスタジオ

表紙の画像

幸福感を高めるオフィスの姿を表現した米ロサンゼルスにあるスチールケース・ワークライフセンター内の画像。光の向きを屈折させるプリズム効果を使用。目的を持って集う活力に満ちた「場」が楽観主義を育て、組織力強化につながります。

24-0000125©2024 Steelcase Inc. All rights reserved. 許可なく記事の複製、転用、写真の無断転載は禁じられています。ここに記載されているトレードマークはSteelcase Inc.または関係各社の商標登録です。本誌は持続可能な100%再生紙で印刷、完全にリサイクル可能でサイズは紙の無駄を最小限に抑えることを念頭に決定されています。

Steelcaseとつながろう

Work Better *Podcast*

Work Better *Online*

Work Better *Webinar*

「より豊かに働く」を実現する当社の最新製品は下記をご覧ください。

steelcase.com/*new*